

令和4年度 第1回 学校運営協議会



板 野 町 板 野 中 学 校

〒 779-0105 板野郡板野町大寺字郡頭 11 番地
TEL 088-672-0079
FAX 088-672-0164

第1回学校運営協議会

1 日 時 令和4年5月25日（水） 16:00～16:40

2 場 所 板野中学校 校長室

3 内 容 (1) 板野町教育委員会教育長あいさつ

(2) 委員自己紹介

(3) コミュニティスクール制度の説明

(4) 学校運営基本方針

(5) 昨年度の学校評議委員会からの提言

(6) 令和4年度の学校運営について

今年度指定研究等

- ・大学連携強化！学校力向上拠点校事業
- ・「学びの架け橋」事業

(7) 質疑

令和4年度 板野町板野中学校 学校運営協議会 委員

	氏名	よみがな	役職	電話番号
	谷川 健二	たにがわ けんじ	板野町教育委員会教育長	672-0136

	氏名	よみがな	役職	備考
1	佐山 哲雄	さやま てつお	板野高等学校長	
2	佐野 明美	さの あけみ	板野町読書ボランティアクラブ	
3	野田 晶子	のだ あきこ	板野町まちづくり女性の会	
4	坂東 安恵	ばんどう やすえ	板野町まちづくり女性の会	
5	吉田 美恵子	よしだ みえこ	板野中学校部活動指導員	
6	石川 五重	いしかわ いつえ	板野中学校PTA会長	
7	山田 匠	やまだ たくみ	板野中学校長	
8	松本 賢一	まつもと けんいち	板野中学校教頭	

校長室

谷川健二教育長 山田匠校長

○ ○

佐山哲雄 ○

○ 松本賢一

佐野明美 ○

野田晶子 ○

○ 石川五重

○ ○

坂東安恵 吉田美恵子

入り口

コミュニティ・スクール 2018

～地域とともにある学校づくりを目指して～



コミュニティ・スクール (学校運営協議会制度) について

「地域とともにある学校づくり」を目指して

連携・協働

子供たちを取り巻く環境や学校が抱える課題は複雑化・多様化しており、教育改革、地方創生等の動向からも、**学校と地域の連携・協働**の重要性が指摘されています。

社会総掛かり

子供や学校の抱える課題の解決、未来を担う子供たちの豊かな成長のためには、**社会総掛かりでの教育の表現**が不可欠です。

共有

輝く子供たちの未来の創造に向けて、学校と地域がパートナーとして連携・協働による取組を進めていくためには、学校と地域住民等が「地域でどのような子供たちを育てるのか」、「何を表現していくのか」という**目標やビジョンを共有**することが重要です。

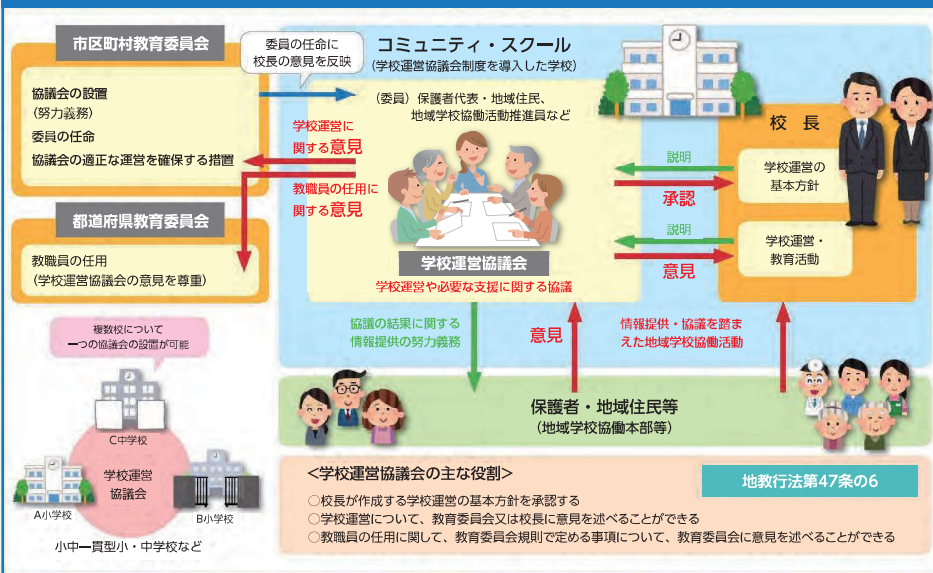
地域とともにある学校づくり

コミュニティ・スクール (学校運営協議会制度) は、学校と地域住民等が力を合わせて学校の運営に取り組むことが可能となる「**地域とともにある学校づくり**」への**転換**を図るための有効な仕組みです。

コミュニティ・スクールでは、学校運営に地域の声を積極的に生かし、地域と一体となって特色ある学校づくりを進めていくことができます。

→ **コミュニティ・スクール = 学校運営協議会** を導入した学校

コミュニティ・スクール (学校運営協議会制度) の仕組み



▶▶ コミュニティ・スクール (学校運営協議会制度) に関する法改正 (平成29年4月施行)

(地方教育行政の組織及び運営に関する法律第47条の6)

- 学校運営協議会の設置が教育委員会の努力義務に
- 学校運営への必要な支援についても協議すること
- 学校運営協議会の委員に、学校運営に資する活動を行う者 (地域学校協働活動推進員等) を追加
- 教職員の任用に関する意見の範囲について、教育委員会規則で定めることが可能に
- 複数校で一つの学校運営協議会を設置することが可能に
- 協議結果に関する情報を地域住民に積極的に提供することが努力義務に

コミュニティ・スクールの主な3つの機能

【地方教育行政の組織及び運営に関する法律第47条の6】

▶▶ 校長が作成する学校運営の基本方針を承認する

学校運営協議会は、校長の作成する「学校運営の基本方針の承認」を通じて、**育てたい子供像や目指す学校像等に関する学校運営のビジョンを共有**します。保護者や地域住民等の意向を当該方針に反映させることで、地域住民等が校長とともに学校運営に責任を負っているという自覚と意識が高まるとともに、学校運営の最終責任者である校長を支え、学校を応援することができます。

ビジョンを共有するにあたっては、一方が伺いをたて、一方がそれを了承するという関係ではなく、**学校と協議会が対等な立場に立ち、お互いに当事者意識を持って、目指すところを共有し、協働へとつなげていく**ことが重要です。

校長は、承認された学校運営の基本方針に沿い、その権限と責任において教育課程の編成等の具体的な学校運営を行うこととなります。



▶▶ 学校運営について、教育委員会又は校長に意見を述べることができる

学校運営協議会は、**広く地域住民等の意見を反映させる**観点から、校長が作成する基本方針の承認にとどまらず、当該学校の運営全般について、教育委員会又は校長に対して主体的に意見を申し出ることができます。委員からは、子供たちの教育や学校運営の当事者としての意見が得られ、学校だけでは気づくことができなかった学校の魅力や課題を共有することができます。

学校運営協議会が教育委員会や校長に対して意見を述べるときは、**個人の意見がそのまま尊重されるのではなく、保護者や地域住民等の代表による合議体としての意見を述べる**こととなります。



▶▶ 教職員の任用に関して、教育委員会規則に定める事項について、教育委員会に意見を述べることができる

学校運営協議会は、**学校の課題解決や教育活動の充実のために校内体制の整備充実を図る**観点から、教職員の採用その他の任用に関する事項について、直接、任命権者に対して意見を述べることができます。学校運営の基本方針を踏まえ、学校と学校運営協議会が**実現しようとする教育目標等に合った教職員の配置を求めるための重要な機能**です。

任命権者 (都道府県・政令市) は域内の実情を踏まえつつ、**学校運営協議会からの意見を尊重するよう努める**ことが求められますが、任命権者の任命権の行使そのものを拘束するものではありません。

また、校長の意見具申権のものに変更が生じるものではありません。(→ P7:Q&A)



全国で授業補助、環境整備、登下校の見守り、放課後子供教室、中高生等への学習支援等の地域学校協働活動が推進され、地域と学校の連携・協力体制が構築されてきており、保護者や地域住民等、多くの関係者が学校の取組や子供たちに直接関わる機会が増えました。だからこそ重要になるのが、**学校・家庭・地域で情報及び課題・目標・ビジョンの共有を確実にすること**です。これらの共有が十分でない、一方が他方に「お願い」をし、それに対して「支援をする」という、貸し借りのような関係になってしまうことがあります。

そこで、地域とともにある学校の運営においては、学校運営協議会で行う協議に加え、**熟議・協働・マネジメント**の3つの視点をもって、左下図のような共有の好循環を作ることが重要です。



① 熟議

熟議とは、**多くの当事者による「熟慮」と「議論」を重ねながら課題解決を目指す対話**のことで、活発な議論により、的確に多くの人の意見を反映することができます。

【具体的なプロセス】

- (1) **多くの当事者（保護者、教職員、地域住民等）**が集まって、
- (2) 課題やビジョンについて「熟慮」し、「議論」することにより、
- (3) 互いの立場や果たすべき役割への理解が深まるとともに、
- (4) それぞれの役割に応じた解決策や方策が洗練され、
- (5) それぞれが納得して**自分の役割を果たすようになる**。

<ポイント>

学校や子供たちの課題等を学校だけで抱え込んでしまうのではなく、**保護者や地域住民等、多様な関係者と**ともに「**1つのテーブルにつくこと**」です。そこで新しいアイデアや考え方が生まれ、今後の方針を決めていくたくさんのヒントが得られます。

【熟議：例】

A小では「子供たちに家庭学習の習慣が定着していない」という課題が。そこで・・・

<熟議のテーマ>

子供たちが**自ら机に向かう習慣を身につける**ために学校・家庭・地域ができることは?

(地域住民) 保護者同士で「熟議」をさせてみては？

(教師) 暗学習で算数のドリルをやらせてみたらいいのでは？

(保護者) もっと魅力ある授業を展開してほしい！

そんなアイデア、考え方があったんですね！

(地域住民) 子供の自主性を言う前に、まず、大人が学習する機会を設けるべきではないか？

→「**すぐにできる取組**」から協働活動へつなげていきます。

② 協働

協働とは、**同じ目的・目標に向かって、対等の立場で協力して共に働くこと**です。

保護者や地域住民等が**計画段階から参画**し、現状や課題、目標・ビジョンの共有ができたうえで、目標に向けた取組を進めてはじめて「協働」といえます。現状や課題、目標・ビジョンについて、多様な関係者が当事者意識をもって協議し、共有する場が学校運営協議会や熟議です。

学校運営協議会や熟議で**共有された目的・目標に向かって取組を進め（協働）**、協働により得られた成功体験を更に学校運営協議会や関係者間で共有するために、協議会が主体となって学校評価を行います。



③ マネジメント

【学校教育法 第三十七条】校長は、校務をつかさどり、所属職員を監督する。

校長は、学校の最終意思決定者として、学校内はもちろんのこと、地域や社会の動きを敏感に察知して、それに対応した組織改革を推進する責任と権限が付与されています。そのため、コミュニティ・スクールの運営の充実にあたっては、**校長の強いリーダーシップ**が求められます。

(1) 学校内の組織体制と協働文化の構築

- 学校と地域の協働による取組を効果的に進めるための、教職員の役割分担と校内体制づくり、学校内の企画・調整機能、事務体制の強化
- 教職員と地域住民を効果的につなぐ交流機会の創出等を通じた、学校に関わる全ての関係者がチームの一員であるという意識の共有

(2) 学校の教育力を向上させるための工夫

- カリキュラムマネジメント
 - ・学校運営協議会委員の授業研究への参加
 - ・委員による授業評価
 - ・委員による意見や評価を反映したカリキュラム編成
- 地域との協働による取組を通じた教職員の資質・能力の向上
- 学校運営協議会から家庭や地域に向けた情報発信

(3) 学校関係者が持つ専門性やネットワークを生かした学校運営

- 様々な関係者の意見を踏まえた学校の課題・目標・ビジョンの設定と共有
- 地域との関係を構築し、多様な専門性を有機的に結び付け、学校が抱える課題の解決や目標達成に向けた協働を促進

【地教法第47条の6 第3項】校長は、委員の任命に関する意見を教育委員会に申し出ることができる。



コミュニティ・スクールを導入することで・・・(導入後の効果)

▶▶ 保護者・地域住民等も子供たちの教育の当事者となり、責任感を持って積極的に子供への教育に携わることができるようになります。

- お互いに顔がわかる関係になり、地域住民等が子供たちに積極的に声をかけたり、直接助言したりする場面が増加します。
- 学校が保護者や地域住民等と一緒に課題等に対する対応策を考え、実行に移すことができます。
- 小中一貫教育等の新しい教育方法との組み合わせにより、地域ぐるみで効果的に子供を育む体制が構築されます。



▶▶ 保護者や地域住民等にとって学校運営や教育活動への参画は、自己有用感や生きがいにつながります。さらに、子供たちの学びや体験が充実します。

- 多くの大人の専門性や地域の力を生かした学校運営や教育活動が実現し、子供たちに多様な経験を積ませることができます。
- 学校が社会的なつながりを得られる場となり、地域のよどころとなります。
- 地域の特性を生かした学びを目標を共有した上で実施することにより、学校での学びがより豊かで広がりを持ちます。



▶▶ 保護者や地域住民等と学校が顔が見える関係となり、保護者や地域住民等の理解と協力を得た学校運営が実現します。

- 学校の現状や運営方針について理解が深まり、地域住民等が学校の応援団となります。
- 学校・家庭・地域の「適切な役割分担」により、教職員が子供と向き合う時間の確保につながります。



▶▶ 地域の課題解決に向けた取組や大規模災害時の緊急対応等に、学校と地域が一体となって取り組むことができます。



コミュニティ・スクールに関するQ&A

Q. 本校では、すでに学校支援活動や学校評議員として地域住民等に入っていたり、地域連携がうまく行われているが、学校運営協議会は必要か？

A. 今日学校を取り巻く課題に適切に対応するためには、地域住民等との連携・協働体制を構築し、その協力を得ることが不可欠です。

地域住民等の協力により実施される学校支援活動を地域学校協働活動として効果的に実施するには、活動を担う地域住民等も、協議や熟議等の実施により、ビジョンや目標の共有を行うことを通じて校長が作成した学校運営の基本方針はもとより、学校の現状や課題等を的確に把握しておく必要があります。

保護者や地域住民等から意見をもらう仕組みとして「学校関係者評価」や「学校評議員制度」がありますが、それらの意見は「合議体」としての意見ではありません。また、述べられた意見を学校運営の基本方針に採り入れるかどうかは、制度上校長次第であり、地域住民等が学校運営に権限を持って参画することが明確に認められているものではありません。

学校運営協議会は合議体であり、校長が作成する学校運営の基本方針の承認を通じ、学校運営の根幹となる「教育課程」や「学力向上」、「いじめや不登校などの生徒指導上の課題」、「部活動」、「共生社会の実現に向けた方針の決定」などについても学校と地域が「対等な立場」で協議するという重要な役割があります。学校運営協議会制度の導入により、地域住民等が当事者として学校運営に参画することを通じて、学校と地域の連携・協働体制が組織的・継続的に確立され、「地域とともにある学校づくり」や「課題解決に向けた取組」を効果的に進めることができます。

地域とともにある学校

学校運営の基本方針の承認

教職員・地域住民・保護者で目標・ビジョンを共有

地域貢献

防犯・防災

小中一貫教育

キャリア教育



見守り隊



学校支援活動



HPによる情報公開



公開授業

「熟議」の実施

学力向上

地域課題解決学習

地域学校協働活動

いじめ・不登校

学校関係者評価
PDCAサイクル

学校評議員制度

「地域に開かれた学校」

これから

従来

Q. 学校運営協議会を設置することで、教職員の負担が増えるのではないかと？



A. 学校運営協議会の設置前後は、組織作りや協議会の開催に関する事務に加え、保護者や地域住民等への理解促進等を地道に行う必要があります。そのため、協議会の運営が軌道に乗るまでに一定程度の稼働が必要となります。一方で、「学校関係者評価」や「学校評議員制度」に関する機能は、学校運営協議会の仕組みに組み込むことで組織を一体化することが可能であり、会議を減らすことができます。また、学校運営協議会が組織されていることで、想定外の協議案件が発生しても、改めて会議体を作る必要がなかったという実例が多く報告されています。

また、コミュニティ・スクールは、学校・家庭・地域が「何をを目指すのか」という目標やビジョンを共有し、「何に取り組む必要があるか」等について協議する機関なので、**学校・家庭・地域が適切な役割分担がなされれば、教職員の負担増に直接つながることはありません。**

教職員が地域住民やさまざまな組織とつながり、顔が見える関係になることで、職場体験等で協力していただける企業や団体等を容易に見つけることができたり、学校の理解者が増えることで、苦情の件数が減ったりするなどの効果も現れています。

Q. 教職員の任用に関する意見の申出により、教職員人事に混乱が生じないかと？

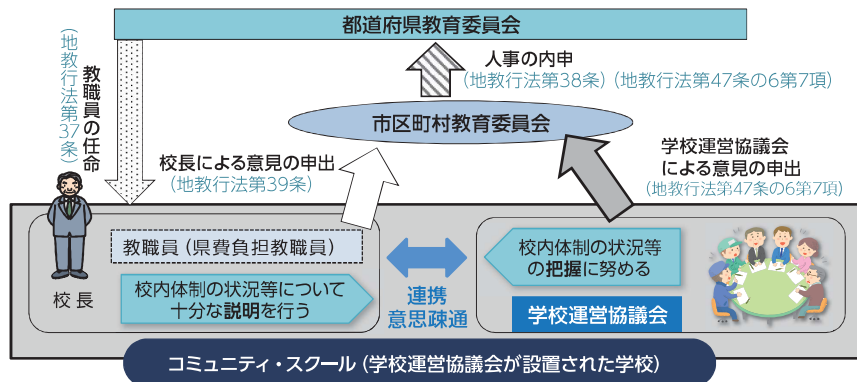
A. 教職員の任用に関する意見は、「地域の特色を生かした教育活動を充実させるための教職員配置」等、校長の学校経営ビジョンを後押しするものが多く、かつ、学校運営協議会は合議制の機関なので、個人としての意見が尊重されるものではありません。そのため、**教職員人事に大きな混乱が生じることはありません。**

また、教職員の任用に関する意見の対象となるのは、採用、転任、昇任に関する事項であり、分限処分、懲戒処分などについては対象とはなりません。

【教職員の任用に関する意見：例】

- ・地域連携の核となる「社会教育主事」の資格を有する教師の配置を要望
- ・若手教職員の人材育成のために、「学年主任ができるリーダー性を持った教師」の配置を要望
- ・「地域に根ざしたスポーツ」に関連する部活動の専門的指導ができる教師の配置を要望
- ・次年度は複数の学年で個別指導が必要な児童がいることから、学習支援員の複数配置を要望

教職員の任用に関する意見については、各学校の特色や地域の実情等を踏まえつつ、どのような事項を学校運営協議会による意見申出の対象とするかについて、各教育委員会の判断に委ねることが適当と考えられることから、平成29年の地教行法改正において、協議会の意見の対象となる事項の範囲については、各教育委員会規則で定めることとなりました。各教育委員会においては、この趣旨を踏まえ、それぞれの域内の事情を勘案し、適切に規則を設けることが求められます。

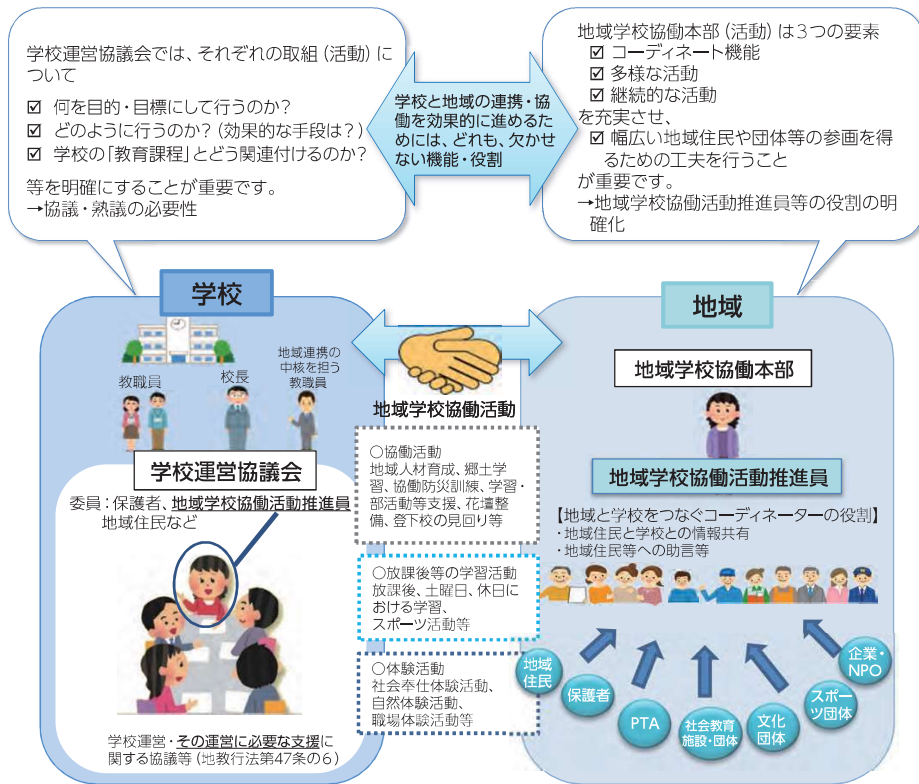


Q. 地域学校協働活動(地域学校協働本部)と学校運営協議会は、どのように一体的に推進していけばいいの？

A. 地域学校協働活動を進めるにあたっては、まず**関係者によるビジョンや目標の共有を行うことが重要であり、学校運営協議会における協議や熟議等がその役割を果たします。**その結果を踏まえ、幅広い地域住民の参画により効果的に地域学校協働活動を行うことにより、子供たちの教育活動の充実や活性化が期待できます。

平成29年3月の地教行法の改正により、学校運営協議会において「学校運営への必要な支援について協議すること」、「学校運営協議会の委員として地域学校協働活動推進員等の学校運営に資する活動を行うものを任命すること」が追加されたことを踏まえ、学校運営協議会と地域学校協働本部が円滑に連携し、両者の機能を効果的に高めていくため、地域学校協働活動推進員が学校運営協議会の委員として学校運営に必要な支援に関する協議に参加するなど、普段からコミュニケーションや情報共有を行うことが重要です。また、地域学校協働活動が効果的かつ適切に行われているか、活動が学校における教育活動や地域の活性化に資するものとなっているかなど、両者の連携により活動に関する振り返りを行い、次年度の地域学校協働活動に反映させることにより、PDC Aサイクルを機能させていくことが重要です。

地域学校協働本部と学校運営協議会は、それぞれが持つ役割を十分に機能させることで両輪としての相乗効果を発揮し、学校運営の改善に結び付けることが期待されます。



※地域学校協働活動推進員
平成29年3月の社会教育法改正により、教育委員会が委嘱することができるようになりました。

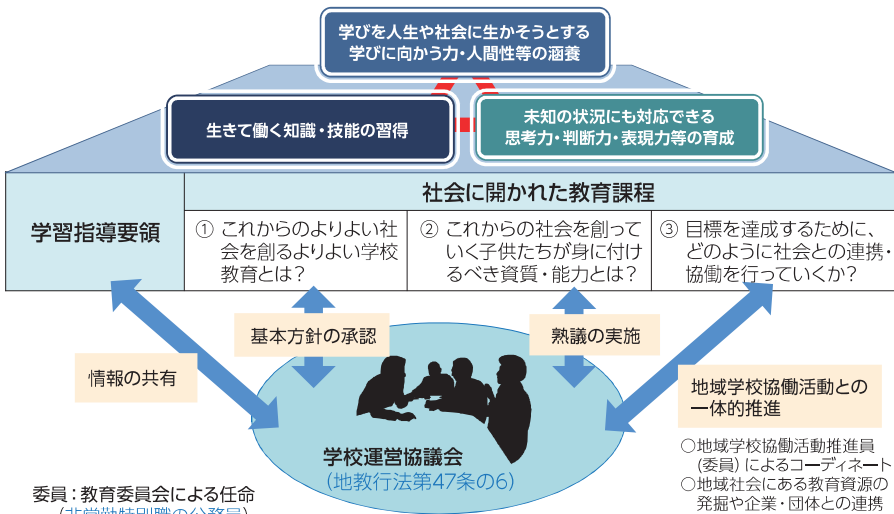
Q. 「社会に開かれた教育課程」の実現に向けて、学校運営協議会にはどのような役割が求められるのか？



A. 今回の学習指導要領の改訂では、「よりよい学校教育を通してよりよい社会を創る」という理念を学校と社会とが共有し、社会と連携・協働しながら、未来の創り手となるために必要な資質・能力を育む「社会に開かれた教育課程」の実現を重視し、その理念を前文に明示しています。

各学校においては、この理念に基づき、児童生徒や地域の実情に応じて、**学校として目指すべき教育の在り方を家庭や地域と共有し、その連携及び協働のもとに教育活動を充実させていく**ことが求められます。共有の在り方としては、教育目標やその実現に向けた教育課程の編成方針の共有、地域住民や保護者などから学校の教育活動の成果や課題を聴き取り、次年度以降の改善の参考にするなどが考えられます。その際、例えば学校運営協議会、地域学校協働本部などといった制度を活用したり、保護者会や学校便りなどの機会を生かしたりしていくことなども考えられます。

学校運営協議会は、教育課程の編成等を含む、校長が作成する基本方針の承認を行う権限を有する合議体です。学校運営協議会が機能することで、保護者や地域住民等の意見を学校運営に反映し、**目指すところを対等な立場で共有することができる**ため、「社会に開かれた教育課程」の実現に向けた連携・協働による取組を効果的かつ計画的に進めることができます。



学校教育法施行規則 第52条
小学校の教育課程については、(中略)文科大臣が別に公示する小学校学習指導要領によるものとする。

小学校学習指導要領(平成29年告示)
第1 小学校教育の基本と教育課程の役割
1. 各学校においては、教育基本法及び学校教育法その他の法令(中略)に従い、適切な教育課程を編成するものとし、これらに掲げる目標を達成するよう教育を行うものとする。

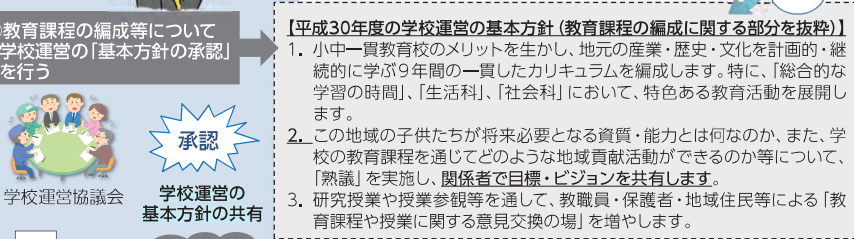
教育課程を介して社会と目標を共有

学校教育法 第37条
校長は、校務をつかさどり、所属職員を監督する。

地教行法第47条の6(学校運営協議会制度)
4. 対象学校の校長は、当該対象学校の運営に関して、教育課程の編成その他教育委員会規則で定める事項について基本的な方針を作成し、当該対象学校の学校運営協議会の承認を得なければならない。

例 学校運営協議会を活用した「社会に開かれた教育課程」共有イメージ
A市立B小学校の場合

校長 学校運営協議会に提示した今年度の「学校運営の基本方針(抜粋)」です。新学習指導要領において重視されている理念も踏まえて基本方針を作成しています。



【平成30年度の学校運営の基本方針(教育課程の編成に関する部分を抜粋)】

- 小中一貫教育校のメリットを生かし、地元の産業・歴史・文化を計画的・継続的に学ぶ9年間の一貫したカリキュラムを編成します。特に、「総合的な学習の時間」、「生活科」、「社会科」において、特色ある教育活動を展開します。
- この地域の子供たちが将来必要となる資質・能力とは何なのか、また、学校の教育課程を通じてどのような地域貢献活動ができるのか等について、「熟議」を実施し、関係者で**目標・ビジョンを共有**します。
- 研究授業や授業参観等を通して、教職員・保護者・地域住民等による「教育課程や授業に関する意見交換の場」を増やします。

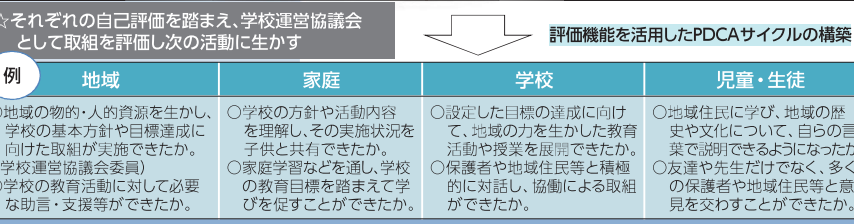
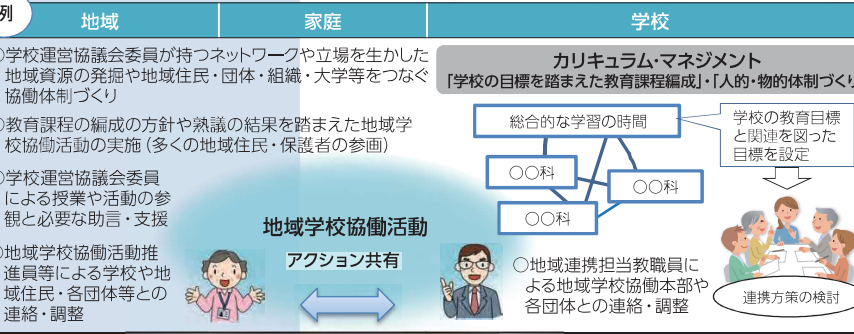
地域貢献活動は
◆学校全体でできること
◆学年段階に応じてできること
に分けて整理すべきでは？

子供たちに「協働性」を身につけさせるために、様々な世代が関わる活動を取り入れるべきでは？

子供たち自身、または地域住民と一緒に「何ができるか」を考えさせてみては？

「自己肯定感」を育むために、小中一貫教育校であることを生かし、中学生が小学生に説明・発表等を行う機会を設けては？

地域の伝統文化に関する「本物の技術」に触れさせ、町の自慢を自信を持って説明できる力を身につけさせたい。



コミュニティ・スクールに関するQ&A

Q. 学校運営協議会の設置に向けて、教育委員会としてはどのようなことに取り組む必要があるか？



A. 平成29年3月の地教行法改正により、学校運営協議会の設置が教育委員会の努力義務となりました。各教育委員会は、**全ての学校がコミュニティ・スクールになることを目指し、一層の設置促進と活動の充実が必要との認識に立って、推進体制の構築をはじめ積極的に取組を進める必要があります。**

都道府県教育委員会の役割としては、域内市区町村の教育委員会や学校関係者等に対し、コミュニティ・スクール等への理解促進を図るとともに、管理職等への研修会の企画・実施等の推進が求められます。また、学校設置者として都道府県立学校におけるコミュニティ・スクールの推進も求められます。

市区町村教育委員会の役割としては、自身の設置している学校の将来像を校長と共有するとともに、地域との連携・協働体制を確立するため、コミュニティ・スクールの推進を支援することが求められます。保護者や地域住民等に対しても、取組の必要性や成果を広く周知するなど、学校への理解と参画を促す環境づくりが重要です。

→教育委員会の取組事例 P.12

Q. 幼稚園や高等学校、特別支援学校にも、学校運営協議会を設置しなければならないのか？

A. 子供たちの生きる力は地域や社会の多様な人々と関わる中で育まれるものであることは、どの段階においても変わるものではありません。地域や社会を支える子供たちを育成していくためにも、**学校種の特性を生かしつつ、幼児・児童・生徒の発達段階に応じて地域や社会との協働体制を構築し、子供たちにとって、社会へつながる持続的・継続的な取組にしていく必要があります、コミュニティ・スクールはそのために有効な手段です。**

◆幼稚園◆

- ・幼児期に家庭や地域の人々など様々な人に愛情をもって関わってもらうことが重要です。
- ・卒園児の保護者や区域の小学校、教育・保育施設との円滑な連携の推進等が期待されます。

◆特別支援学校◆

- ・学校運営協議会を通じて、保護者や地域住民等に加え、医療、保健、福祉等と連携し、共生社会の実現を目指して子供たちが自立し参加できる環境の充実を図ることが期待されます。
- ・特別支援学校が有する資源の有効な活用を図ることを通じて、地域の活性化や、共生社会の実現に貢献していくことも期待されます。

◆高等学校◆

- ・高等学校において、広く地域や社会の参画や協力を促進することは、生徒たちが活躍する将来を見据えた学校運営の改善につながるるとともに、キャリア教育の推進や学校の魅力化、特色づくりに資するものです。
- ・地域の差し迫った課題を、高校生自らが地域と協働して解決していく地域課題解決型学習を実施するなど、高等学校と地域の双方向的な魅力を発信することにより、これからの時代に必要な生徒の主体性や協働性の育成に資することも期待されます。
- ・高等学校は生徒の通学範囲が広いと、学校にとっての「地域」の定義が明確でない場合がありますが、自然災害等の発生を想定し、防災の観点で普段から学校が所在する地域との関係を作っておく必要があります。

→高等学校の取組事例 P.13,14

教育委員会の
取組例

秋田県 由利本荘市教育委員会

市の未来を託せる人材の育成をめざして

首長部局・地域と連携し、ふるさと愛にあふれる子供を育成する

由利本荘市では人口減少が進み、地域の継承が途絶えてしまうことが課題となっていることから、地域を引き継ぎ、地域に根付く人材を育成するため、首長部局・関係機関・地域・教育委員会が連携してコミュニティ・スクールの活性化を進めました。

地域の方々の支援を受けながら地域学習をし、また、子供たちが自ら地域の課題を考え、解決に向けた能動的な学習を通じて、豊かな心とふるさと愛を育む取組を推進しています。

コミュニティ・スクールの活性化に向けた教育委員会の取組

各学校、地域がコミュニティ・スクールを推進していくための条件整備やネットワークの構築、研修機会の確保などに教育委員会が積極的に関与し、市全体でコミュニティ・スクールの活性化を促進しています。

●市協働連携総合会議

首長部局の部長等・地域学校運営協議会委員・青少年育成団体・校長等・PTAなど関係者を委員とし、市全体の方向性や相互連携の調整等について協議しています。

学校・地域・行政が連携して方向性の確認や評価を行う

●市コミュニティ・スクール連絡協議会

市内全小中学校の校長・学校運営協議会会長・地域運営協議会会長・教育委員会各課長等が「コミュニティ・スクール」の取組みについて情報共有を図るとともに、めざす子供像に向けて実践的な対応策を協議する場です。



各学校、地域の情報共有、現状課題の把握、CS委員のネットワーク構築、研修機会の確保

●地域連携調整会議

中学校区単位で行政（総合支所長等）や学校運営協議会委員・青少年育成団体など関係者を委員とし、学校・地域・行政の情報共有や連携して実施する事業などの調整を図っています。

学校・地域・行政が連携して方向性の確認や評価を行う

●協働コーディネーター、CSコーディネーターの配置

地域との調整を担う既存の地域コーディネーター（学校支援活動事業）に加えて、行政や関係機関との調整を担う協働コーディネーター、中学校区ごとの学校との調整役となるCSコーディネーターを配置しています。

学校・地域・関係機関・行政との連携の核となり調整を図る

●学ぶんフォーラム

市の未来を担う子どもたちの学びを、市民対象に一般公開する

市民に対して説明責任を果たすとともに、市民全体で考える機会を作る

- 学校支援活動事業（地域コーディネーターの調整による学校支援活動の展開）
- 学ぶん・チャレンジ・プログラム（首長部局と連携した市独自プログラム）

学校・地域・行政が連携した学習プログラムの展開



ジオサイト探検隊(高海中)

和歌山県では、平成29年度からの3年間で、全ての公立小・中・高等学校及び特別支援学校にコミュニティ・スクールを導入します。平成30年度には、全ての県立高等学校・特別支援学校に導入しました。



県立串本古座
高等学校

地域とともに歩む学校

串本古座高校地域協議会と学校運営協議会

平成28年に串本町、古座川町の関係者が集まり、学校と地域の連携を強化するため、串本古座高校地域協議会が発足しました。29年度にはきのかくにコミュニティスクールとして、串本古座高校学校運営協議会を設置、活動を始めました。両協議会から出した意見を取り入れ、「地域まるごとキャンパス構想」の充実や、中学校長や中学校保護者を対象とした学校説明会の開催、地域協議会と連携した学習の場である「くろしお塾」の取組などを行っています。

きのかくにコミュニティスクール...コミュニティスクールとそれを支える既存の「きのかくに共育コミュニティ」等との連携、協働により、社会総掛かりで教育を実現する仕組み



これからの取組

①地域活性化の核たる存在に

地域にある唯一の高校として、地域協議会と学校運営協議会の両輪で、この地域の将来を担う人材を育成し、地域活性化の核たる存在になるための取組を進めています。

②様々な取組を展開

和歌山大学、早稲田大学等と連携した取組や、トルコ大使館から講師を招聘した学習などを展開していきます。また、「くろしお塾」を主体として、高校生のみならず、この地域の小中学生や社会人を巻き込んだ取組を展開することで、「地域とともに歩む学校」をめざしていきます。

地域まるごとキャンパス構想

①地域活性化に貢献する人材の育成をめざして

「地域と一体となった特色ある学校づくり」「地域に貢献できる人材の育成」という思いのもと、平成29年度から、地域の教育資源を活用する「地域まるごとキャンパス構想」を立ち上げました。本校グローバルコース（全国募集）では、地元ダイビング事業組合と協力した「マリンスポーツ」、地域の特色や魅力を自然科学分野から学ぶ「海洋環境」など、様々な特色ある授業を行っています。



②CGS（地域包括的支援部）の活動

地域貢献を目的としたCGS（地域包括的支援部）では、地域の方々や協力して、「まろく」「ゆず」などの地域産品を使った商品の開発、JRとコラボした防災への取り組みなど、特色ある活動を行っています。



地域の中核を担う若者を育てる

「有田中央高校地域協育会」からきのかくにコミュニティスクールへ

地域の未来を託す若者を“みんながかりで育てよう”との思いから、「有田中央高校地域協育会」は平成23年に発足しました。学校・家庭・地域社会が連携し、それぞれの教育機能を補完・融合しながら様々な提言や支援活動を行っています。平成29年度からは、きのかくにコミュニティスクールとして、学校運営協議会と連携しながら活動を進めています。

- 1.生徒の活動・活躍の場を広げる部会
- 2.さわやかな街づくり部会
- 3.キャリアサポート部会
- 4.アグリ☆スマイル部会
- 5.福祉部会
- 6.地域の学校教育連携部会
- 7.品評会を盛り上げる部会



きのかくにコミュニティスクール

地域社会の中核を担う若者を協同して育てよう

これからの地域をリードする若者

・明るい家庭を築き、地域の活性化に貢献する人材

・職業人として地域の産業を支え、地域の発展に尽くす人材

・地域コミュニティに参画し、地域のつながりに努める人材



きのかくにコミュニティスクールを導入して良かったこと

地域との交流の機会が増加し、地域の一員としての自覚の芽生え

清掃ボランティア活動等に取り組むことにより、地域の方々や接する機会も増え、登下校の様子も明るくなってきました。

地元の企業にも多くの生徒が就職し、就職後も地域の活動に取り組むなど、学校と地域、地元企業との連携につながっています。

学校運営協議会委員長コメント

本校OBとして、また、地域の一員として関わっています。母校が元気になることは、地域も元気になり、地域の活性化にもつながっていきます。これからの取り組みにも共に注目していきたいと思っています。



玖珠美山高校コミュニティ・スクールの基本構想

Change→Chance→Challenge！ 変化を機会に、そして挑戦へ！

基本理念
(めざす学校像)

「自立・創造・協同」の校訓のもと、多種多様な社会において、逞しく生き抜き、社会をリードする生徒を育成し、「地域の学校」としての存在が地域の活力の源となるよう、地域に根ざし、地域に愛され、地域と共に成長する学校を目指す。

◎コミュニティ・スクール導入の目的

- 地域の人材やアイデアを活かした特色ある学校づくり→地域の総合力で生徒の成長を支え、地域の学校として育て、地域の活性化につなげる。
- 新設高校の定員確保→「おらが町の高校」として、地域をあげて支援する雰囲気が醸成され、高校入試においては生徒に選ばれる総合選択制高校につなげる。
- 地域を担う人材の育成→小・中・高の12年間に渡り児童生徒の育成に関わることで、郷土を愛する心を育み、将来ふるさとを支える人づくりにつなげる。

◎コミュニティ・スクールのイメージ



小・中の学校運営協議会委員が委員として参画
小中学校コミュニティ・スクールで培った
学校、家庭、地域の教育力を生かす

◎地域連携の具体的な取り組み(案)

- 小・中学校のコミュニティ・スクールと連携し、小・中・高が一体となって「地域に密着した系統的なキャリア教育の実践研究」に取り組む。
- 地域のイベントや地元小・中学校、保育園、病院等の行事に積極的に参加する。
- 小・中学校への出前授業に取り組み、地域の児童生徒の育成に高校の教職員や生徒も積極的に関わる。
- 新規就農希望者対象に基礎的農業科目を受講できる機会を設けるなど、異世代間交流により地域の活性化を図る。
- 教育ボランティアを募集し、放課後等での英語や数学等の学びやキャリア教育にかかる支援をお願いする。

学校運営協議会

学校運営協議会での議論 ※右図はH29議題

- ・喫緊の課題である生徒減少に対する具体的な解決策や高校の在り方を議論
- ・普通科、地域産業科という各コースの特色を生かした活動の展開を方向づけ
- ・生徒による発表の場面を設定し、主体性を伸長

美山グローバルプロジェクト(MGP) ~地域問題解決プロジェクト~

生徒の可能性を引き出し、地域に貢献する人材の育成をテーマに学力向上、部活動活性化、地域問題解決の3プロジェクトを実施。ここでは、地域問題解決プログラムを紹介。

課題研究発表会(地域産業科)

- ・地域課題の調査研究、解決策の発表

玖珠の匠・達人に聞く

- ・地域人材による特別講座、課題解決研究

中学校との連携

- ・出前講座、生徒による学校紹介 など

回	平成29年度学校運営協議会の議題等
1	<ul style="list-style-type: none"> ○平成28年度成果と課題 ○平成29年度学校教育目標・経営方針の承認について ○平成29年度学校運営協議会の年間計画について
2	<ul style="list-style-type: none"> ○美山グローバルプロジェクトIIについて ○学校運営の進捗状況について ○学校運営協議会委員との連携について ◎学校運営協議会委員と職員との熟議、意見交換◎ ○熟議、全体協議 (テーマ1) 学校運営協議会に期待すること (テーマ2) 学校の魅力・特色づくりについて
3	<ul style="list-style-type: none"> ○1学期学校運営進捗状況について(玖珠町・九重町両町支援金含む) ○美山グローバルプロジェクトIIについて ◎学校紹介ビデオ視聴◎ 第1弾 玖珠郡内中学校での高校説明会 第2弾 久大地区高校説明会(玖珠郡内中学校) ※英語科作成 ◎海外短期派遣留学生 体験報告◎
4	<ul style="list-style-type: none"> ○2学期の学校運営進捗状況について(進路実績等を含む) ○学校評価について ○平成30年度以降の学校運営協議会について ○平成30年度教育課程案 ◎生徒研修報告(東京・つくば研修)◎
5	<ul style="list-style-type: none"> ○平成29年度学校運営について(進捗状況、学校評価を含む) ○3年生進路状況について ○平成30年度高校入試志願状況について ○平成30年度以降の学校運営協議会について

コミュニティ・スクールの導入状況

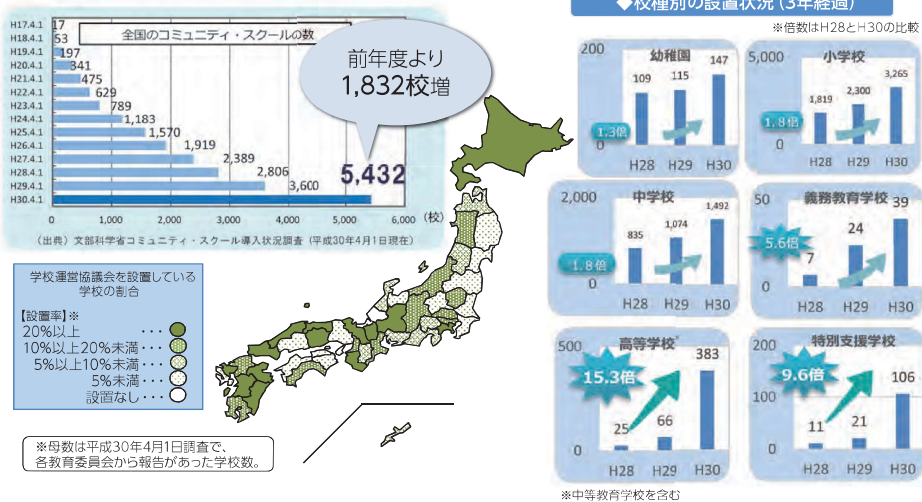
コミュニティ・スクールの導入状況 (学校数)

学校運営協議会を設置している学校数

46都道府県内 **5,432校** (平成30年4月1日現在)

(幼稚園147、小学校3,265、中学校1,492、義務教育学校39、中等教育学校1、高等学校382、特別支援学校106)

全国の公立学校のうち、**14.7%**がコミュニティ・スクールを導入



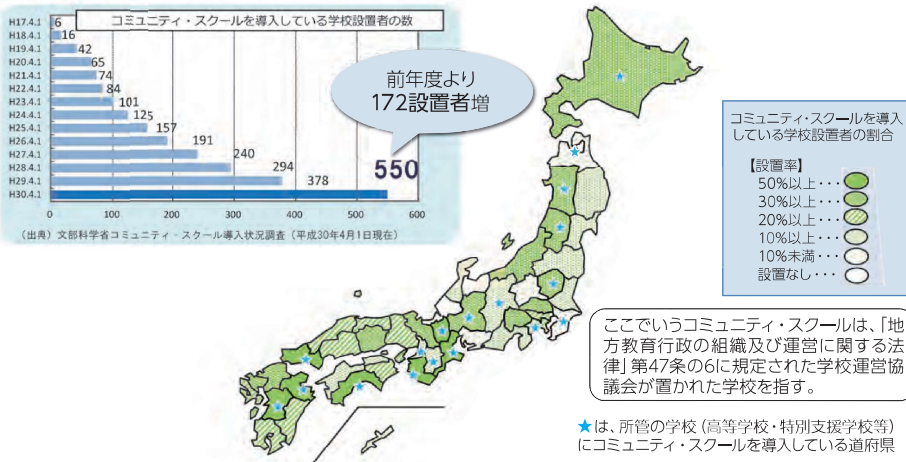
コミュニティ・スクールの導入状況 (学校設置者数)

コミュニティ・スクールを導入している学校設置者数

46都道府県内 **532市区町村 18道府県** (平成30年4月1日現在)

(18道府県、526市区町村 (7政令指定都市を含む)、6学校組合)

全国の学校設置者`のうち、**30.5%**がコミュニティ・スクールを導入



コミュニティ・スクール推進員/情報について

コミュニティ・スクール推進員 (CSマイスター)

CSマイスター派遣制度

文部科学省では、全ての公立学校がコミュニティ・スクールとなることを目指し、自治体に対して導入や推進に向けた積極的な支援を行っています。その一環として、要請に応じてCSマイスター (コミュニティ・スクールの導入や実践経験を有する元校長や教育長、学校運営協議会会長等) を派遣し、教育委員会事務局職員・教職員・地域住民等を対象とした研修会や制度説明会等を支援しています。

赤松 梨江子 徳島県 東みよし町立三好中学校 事務室長	畦地 和也 高知県 黒潮町教育委員会 教育長	阿蘇品 康宏 熊本県 山鹿市立山鹿中学校 再任用教諭
新谷 さゆり 岐阜県 白川村教育委員会事務局 社会教育主事	安齋 宏之 福島県 本宮市立五百川小学校 校長	井上 尚子 東京都 杉並区立天沼小学校運営協議会会長兼専務代理者、学校支援本部アドバイザー
今泉 良正 宮城県 石巻市教育委員会生涯学習課 コミュニティ・スクール事業 企画員	今村 隆信 福岡県 純真短期大学 特任教授	大谷 裕美子 大阪府 美咲の台学園小学校 学校運営協議会副会長、ゆめ☆まなびネット学校支援 コーディネーター
大山 賢一 新潟県 新潟薬科大学 非常勤講師	梶原 敏明 大分県 大分大学COC+推進機構 統括コーディネーター	風岡 治 愛知県 愛知教育大学 准教授
小西 哲也 兵庫県 兵庫教育大学教職大学院 教授	小見 まいこ 新潟県 NPO法人みらいずworks 代表理事	木本 育夫 山口県 光市教育委員会 地域連携教育アドバイザー
玉利 勇二 宮崎県 都城市立五十巾中学校 校長	竹原 和泉 神奈川県 NPO法人まちと学校のみらい 代表理事	辻林 操 三重県 津市立南が丘小学校 学校運営協議会会長
豊島 滋 北海道 安平町教育委員会 生涯学習アドバイザー	永江 多輝夫 鳥取県 南砺町教育委員会 教育長	中村 正則 兵庫県 兵庫教育大学教職大学院 教授
布川 元 山形県 大石田町教育委員会 教育長	野澤 令照 宮城県 宮城教育大学 学長付特任教授	萩本 善三 京都府 京都教育大学 客員教授
森 保之 福岡県 福岡教育大学教職大学院 教授	森谷 正孝 岡山県 NPOの法人子どもたち共に学ぶ 教室ニアスクール 副理事長	四柳 千夏子 東京都 一般社団法人みたかSC サポートネット 代表理事

コミュニティ・スクールの情報について

全国コミュニティ・スクール連絡協議会

全国コミュニティ・スクール連絡協議会では、全国の教育委員会、学校関係者、学校運営協議会の皆さんをネットワークでつなぎ、全国各地の事例についての情報共有をすることで、コミュニティ・スクールの更なる普及・充実に向けた活動に取り組んでいます。

〒604-8064 京都市中京区富小路六角下る骨屋之町549 京都府教育委員会事務局 生涯学習部内
TEL: 075-251-0456 FAX: 075-251-0449
全国コミュニティ・スクール連絡協議会HP <http://www.japan-cs.org/>

文部科学省ホームページ

コミュニティ・スクール

検索

URLはこちら
http://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/community/index.htm

Facebookでも情報発信中

CSマイスターや推進フォーラムの情報を随時発信しています



スマホからはこちら

キャリア教育

只今、市立M中学校は「職場体験学習」の準備中...

生徒の受け入れを
お願いできませんか
お願ひできませんか

A先生 ↓
「忙しい子どもの相手なんの出来さうよ」

うちの子は「プロスポーツ選手を目指して」るので「地元の職場体験」は行かなくていいです...

B先生 ↓
「保護者」

「教材研究」「部活指導」「教員研修会」...
「通常業務」をこなすのに「精一杯」...

職場体験の準備が進まない!

「ちよつとまって」

コミュニティ・スクールなら
協働で課題解決

「商工会のネットワーク」を受け入れ先を探します

M中学校の様子はよく分かっているので先方にも話しがしやすいよ。

「職場体験の意義」について「理解が深まり」「保護者全体の周知に努めます」

コミュニティ・スクール

広がる可能性

プログラミング教育

市立H小学校
2020年
プログラミング教育
全面実施に向けて
協議中

「私、プログラミング、なんでも学んでいせんどうやっつて」

「E先生」

「我が校でも取り組みたい」

「必要性」
「ほかに」
「けいこ」
「小学校では対応」

コミュニティ・スクール 新しい時代の教育に「即」対応!!

「コミュニティ・スクールが機能していれば、地元の大学や高専等から協力を得やすくなり、学生ボランティアの派遣を検討します。」

「学習支援員」

「元システムエンジニアです。自分のスキルを生かしたいです」

「要請」

「今日は5時間授業だよ」

「お父さん、おはよう」

「おはよう」

「帰る時間だよ」

「帰宅時間の確認」

「防犯が」

「管理使用」

「方法の確認」

「通学路安全点検」

「低学年の下校指導」

「情報発信」

「まず、家庭から」

「通勤前見守り」

「共有連携見落としナシ」

「地域」

「学校」

「通学中一年生が」

「お、今行く?」

「先生に連絡して」

「H大学情報学部教授」

「市民館長」

「学校長」

「PTA代表」

「商工会役員」

「みんな顔見知り」

「おはよう」

「おはよう」

「自治会役員」

「町会の各下防犯活動」

「お、今行く?」

「先生に連絡して」

「地元の企業 人事担当」

「地域課題解決への取組が鍵です」

「企業もぜひ高校とコラボしたい」と思っています

「PTA代表」

「子供たちの将来を見越して」

「高等学校も変わらなければならぬのでは?」

「高等学校もコミュニティ・スクール改革!!」

「今こそ」

「主体性」「多様性」「協働性」

「準備した人材」

「大学入試は今までとあまり変わりませんよ」

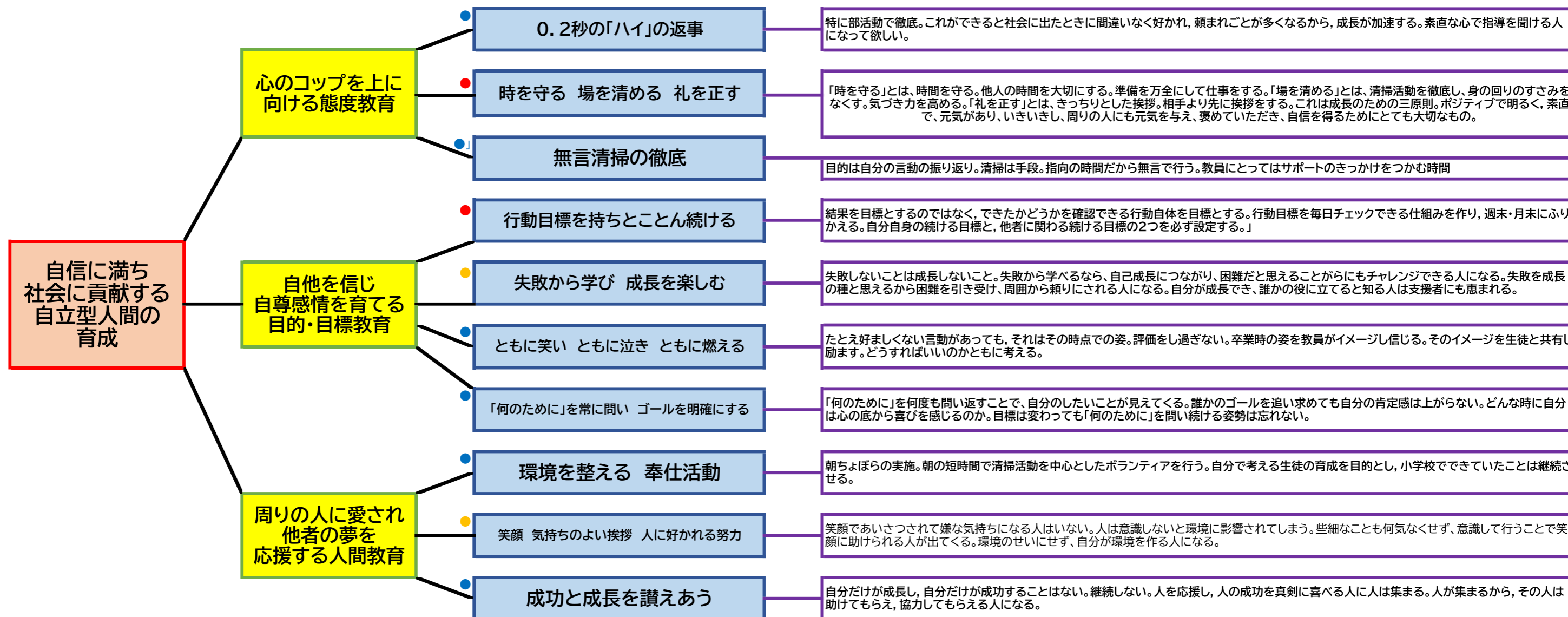
「C先生」

「先生方、これこそ我が社会人の姿ですよ」

「D先生」

大学入試改革

県立の高校では「学校運営協議会」が開かれていたが...



板野中学校の重点教育目的・目標

1 とことん続ける目標はできたかどうかはつきりわかりますか？

	はつきりしてい	きりしてい	いいのかわ	目標がしつ	
			からない	くり	
				らない	
4月	1A	27	2	0	0
	1B	25	3	0	0
	1C	23	4	1	1
	1年合計	75	9	1	1
	2A	30	0	0	0
	2B	29	1	0	0
	2C	29	1	0	0
	2年合計	88	2	0	0
	3A	30	0	0	1
	3B	31	0	0	0
	3C	29	1	1	0
	3年合計	90	1	1	1
	全体合計	253	12	2	2
	%	94.1	4.5	0.7	0.7

269

2 とことん続ける目標が何日できていますか

		7日	6日	5日	4日	3日	2日	1日	0日
4月	1A	5	7	9	5	2	0	0	1
	1B	2	3	10	7	6	0	0	0
	1C	3	3	6	10	5	2	0	0
	1年合計	10	13	25	22	13	2	0	1
		48				16			
	2A	8	7	8	3	2	0	1	1
	2B	3	9	9	7	2	0	0	0
	2C	8	8	5	6	2	0	0	1
	2年合計	19	24	22	16	6	0	1	2
		65				9			
	3A	5	2	13	9	1	0	0	1
	3B	15	6	8	2	0	0	0	0
	3C	8	5	9	7	1	0	0	1
	3年合計	28	13	30	18	2	0	0	2
		71				4			
	全体合計	57	50	77	56	21	2	1	5
		184				29			

3 応援したり励ましたり何日できていますか

		7日	6日	5日	4日	3日	2日	1日	0日
4月	1A			12	3	9	4	1	0
	1B			3	6	8	7	3	1
	1C			5	5	11	7	1	0
	1年合計	0	0	20	14	28	18	5	1
		34				28	24		
	2A			9	6	7	5	1	2
	2B			11	8	4	4	1	2
	2C			7	10	6	5	1	1
	2年合計	0	0	27	24	17	14	3	5
		51				17	22		
	3A			7	10	10	2	1	1
	3B			15	6	5	1	3	1
	3C			10	6	6	5	2	2
	3年合計	0	0	32	22	21	8	6	4
		54				21	18		
	全体合計	0	0	79	60	66	40	14	10
		139				130	64		

4 あなたは自分に自信が持てるようになっていきますか？

		自信がある	つき始めている	消えかけている	自信がない	
4月	1A	8	18	3	0	
	1B	9	17	2	0	
	1C	0	25	3	1	
	1年合計	17	60	8	1	86
		19.8	69.8	9.3	1.2	
	2A	12	17	1	0	
	2B	11	16	1	2	
	2C	11	19	0	0	
	2年合計	34	52	2	2	90
		37.8	57.8	2.2	2.2	
	3A	6	24	0	1	
	3B	12	17	1	1	
	3C	11	18	2		
	3年合計	29	59	3	2	93
		31.2	63.4	3.2	2.2	
	全体合計	80	171	13	5	269
	%	29.7	63.6	4.8	1.9	

5 明日への扉によかったところ・もう一度
やり直せるとしたらが書けていますか

		7日	6日	5日	4日	3日	2日	1日	0日
4月	1A	11	5	4	5	3	0	0	1
	1B	13	3	5	3	4	0	0	0
	1C	2	4	13	3	2	3	2	0
	1年合計	26	12	22	11	9	3	2	1
		60			11	15			
	2A	5	5	6	4	2	3	1	4
	2B	9	7	6	4	1	0	1	2
	2C	6	5	5	2	7	2	1	2
	2年合計	20	17	17	10	10	5	3	8
		54			10	26			
	3A	5	4	6	5	3	3	2	3
	3B	15	3	5	2	5	0	0	1
	3C	8	2	4	3	5	3	0	6
	3年合計	28	9	15	10	13	6	2	10
		52			10	31			
	全体合計	74	38	54	31	32	14	7	19
		166			31	72			

6 一言も話さずに掃除ができていますか

		7日	6日	5日	4日	3日	2日	1日	0日
4月	1A			9	8	3	7	2	0
	1B			7	9	8	3	1	0
	1C			18	6	5	0	0	0
	1年合計	0	0	34	23	16	10	3	0
		57				16	13		
	2A			5	9	7	3	1	5
	2B			3	3	8	6	3	7
	2C			5	4	10	2	3	6
	2年合計	0	0	13	16	25	11	7	18
		29				61	36		
	3A			7	11	3	6	1	3
	3B			10	11	4	5	1	0
	3C			2	3	7	11	5	3
	3年合計	0	0	19	25	14	22	7	6
		44				49	35		
	全体合計	0	0	66	64	55	43	17	24
		130				139	84		

7 登校・授業予鈴・部活動等時間が守られていますか？

		7日	6日	5日	4日	3日	2日	1日	0日
4月	1A			21	3	5	0	0	0
	1B			17	6	5	0	0	0
	1C			18	6	1	3	0	1
	1年合計	0	0	56	15	11	3	0	1
		71				11	4		
	2A			21	4	3	0	2	0
	2B			21	7	1	1	0	0
	2C			23	5	0	2	0	0
	2年合計	0	0	65	16	4	3	2	0
		81				4	5		
	3A			15	6	2	0	0	2
	3B			23	5	3	0	0	0
	3C			22	4	3	1	1	0
	3年合計	0	0	60	15	8	1	1	2
		75				8	4		
	全体合計	0	0	181	46	23	7	3	3
		227				23	13		

8 聞こえる挨拶ができていますか？

		7日	6日	5日	4日	3日	2日	1日	0日	
4月	1A			18	8	1	1	0	1	
	1B			18	3	3	3	1	0	
	1C			16	7	2	4	0	0	
	1年合計	0	0	52	18	6	8	1	1	
		70				6	10			
	2A			20	7	3	0	0	0	
	2B			20	7	3	0	0	0	
	2C			19	6	4	1	0	0	
	2年合計	0	0	59	20	10	1	0	0	
		79				10	1			
	3A			22	5	2	1	0	1	
	3B			30	1	0	0	0	0	
	3C			22	6	2	0	0	1	
	3年合計	0	0	74	12	4	1	0	2	
		86				4	3			
	全体合計	0	0	185	50	20	10	1	3	
		235				20	14			

9 「朝ちょぼら」に参加したことがありますか？

		7日	6日	5日	4日	3日	2日	1日	0日	
4月	1A			0	0	0	0	2	27	
	1B			0	0	0	0	1	27	
	1C			0	0	0	2	2	25	
	1年合計	0	0	0	0	0	2	5	79	
		0				0	86			
	2A			0	1	0	1	2	26	
	2B			0	0	0	0	2	27	
	2C			3	2	0	1	1	23	
	2年合計	0	0	3	3	0	2	5	76	
		6				0	83			
	3A			0	0	0	0	0	31	
	3B			0	0	0	0	0	31	
	3C			0	0	0	0	1	30	
	3年合計	0	0	0	0	0	0	1	92	
		0				0	93			
	全体合計	0	0	3	3	0	4	11	247	
		6				0	262			

令和3年度 学校評価アンケート【学年末】まとめ

生徒の回答

保護者の回答

教師の回答

設問項目		R3年度	R3中間	R2年度	R1年度
学校生活・生活指導	1 学校での生活は楽しい。	93.0%	93.9%	88.4%	89.8%
	2 学校や学級で、いじめもなく友だちと仲よく過ごしている。	94.7%	96.4%	95.4%	94.7%
	3 場に応じて、聞こえる挨拶をしている。	94.0%	95.4%	93.7%	86.6%
	4 遅刻をしないなど時間を守って生活している。	92.9%	92.9%	90.5%	85.2%
	5 自転車で登校するときはヘルメットをかぶっている。	96.8%	98.2%	97.5%	95.4%
	6 先生は困ったことや悩んでいることの相談にのってくれる。	87.4%	88.3%	83.9%	84.2%
	7 予鈴着席、私語をしないなどの規律ある授業ができています。	83.2%	85.4%	82.6%	77.5%
	8 提出物を忘れずに出している。	77.5%	84.3%	79.7%	74.3%
学力・学習指導	9 自分の考えや意見を伝える力など、表現できる力がついている。	76.8%	66.4%	68.6%	68.3%
	10 授業の内容を理解している。	83.9%	85.3%	78.0%	75.4%
	11 毎日、家庭学習をしている。	81.8%	82.9%	72.0%	70.4%
	12 朝読書以外にも読書をしている。	44.6%	43.2%	47.6%	47.9%
進路指導	13 将来の夢や希望の実現に向けて考えている。	71.6%	63.9%	68.9%	62.0%
	14 自分には良いところがある。	77.2%	77.8%	71.7%	72.9%
道徳教育	15 社会のルールを守って生活している。	93.0%	94.6%	95.1%	91.2%
	16 自分が大切な存在であると思っている。	81.8%	76.1%	70.3%	68.0%
	17 「とことん続ける目標」で、自信につながった。	84.9%	82.2%	76.2%	64.8%
	18 道徳の時間に積極的に取り組んでいる。	83.2%	82.8%	77.3%	75.7%

設問項目		R3年度	R3中間	R2年度	R1年度
学校生活・生活指導	1 子供は、楽しく学校生活を送っている	93.7%	92.7%	90.3%	90.3%
	2 子供は、学校でいじめもなく、友だちと仲よく過ごしている	92.1%	91.9%	91.4%	90.0%
	3 子供は、場に応じて、聞こえる挨拶をしている	89.7%	88.8%	86.9%	86.4%
	4 子供は、遅刻をしないなど時間を守って生活している	84.5%	87.8%	85.8%	81.0%
	5 子供は、自転車で登校するときはヘルメットをかぶっている	96.0%	96.8%	97.5%	97.8%
	6 学校は、生徒同士のトラブルや悩みなど、生徒が相談しやすい環境づくりに努めている	90.1%	87.7%	83.5%	82.4%
	7 子供は、予鈴着席、私語をしないなどの規律ある授業ができています	92.5%	88.8%	87.9%	81.7%
	8 子供は、提出物を忘れずに出している	75.8%	76.5%	73.1%	71.3%
学力・学習指導	9 子供は、自分の考えや意見を伝える力が身についている	73.4%	73.4%	73.4%	68.8%
	10 子供は、授業の内容を理解している	71.0%	69.1%	62.8%	58.8%
	11 子供は、家庭学習をする習慣が身についている	62.3%	57.7%	46.9%	46.2%
	12 子供は、家庭でも読書をしている	29.4%	28.7%	30.3%	29.0%
進路指導	13 子供は、将来の夢や希望の実現に向けて考えている	57.5%	53.0%	52.1%	43.0%
	14 保護者は子供の良いところを知っている	94.8%	94.3%	98.3%	97.5%
道徳教育	15 子供は、社会のルールを守る態度が育っている	92.1%	90.9%	92.4%	78.9%
	16 子供は、自分を大切な存在であると思っている	93.3%	91.9%	88.2%	87.1%
	17 子供は「とことん続ける目標」で、自信につながっている	79.4%	71.2%	66.2%	57.3%
	18 子供が、道徳でどんなことを学んでいるか知っている	52.8%	54.1%	50.3%	49.1%

設問項目		R3年度	R3中間	R2年度	R1年度
学校生活・生活指導	1 生徒は楽しく学校生活を過ごしている	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%
	2 生徒は学校や学級で、いじめもなく友だちと仲よく過ごしている	100.0%	100.0%	96.2%	96.2%
	3 生徒は場に応じて、聞こえる挨拶をしている	86.7%	93.4%	80.8%	69.2%
	4 生徒は、遅刻をしないなど時間を守って生活している	86.7%	90.0%	92.3%	80.8%
	5 生徒は、自転車で登校するときはヘルメットをかぶっている	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%
	6 生徒同士のトラブルや悩みなどを生徒が相談する時間を設定している	96.7%	86.7%	73.1%	84.6%
	7 生徒は、予鈴着席、私語をしないなどの規律ある授業ができています	100.0%	100.0%	92.3%	73.1%
	8 生徒は、忘れず提出物をだしている	66.7%	76.7%	76.9%	53.8%
学力・学習指導	9 生徒は、自分の考えや意見を伝える力など、表現力が育っている	60.0%	63.3%	80.7%	53.8%
	10 生徒は、授業の内容をよく理解している	76.7%	73.4%	84.6%	73.1%
	11 生徒は、家庭学習をする習慣が身についている	63.3%	50.0%	65.4%	57.7%
	12 生徒は、読書に親しむ習慣が育っている	46.7%	56.6%	46.2%	23.1%
進路指導	13 生徒は、将来の夢や希望の実現に向けて、主体的に進路選択しようとしている	80.0%	63.4%	80.8%	57.7%
	14 自分の良いところを知っている	93.3%	90.0%	100.0%	100.0%
道徳教育	15 生徒は、社会のルールを守る態度が育っている	96.7%	93.3%	92.3%	88.5%
	16 生徒は、自分を大切な存在であると思っている	93.1%	83.4%	84.6%	84.6%
	17 生徒は「とことん続ける目標」で、自信につながっている	100.0%	93.3%	88.5%	80.8%
	18 道徳の授業内容を通信等で知らせている	66.7%	73.4%	65.4%	100.0%

令和3年度 学校評価アンケート【学年末】まとめ

生徒の回答

保護者の回答

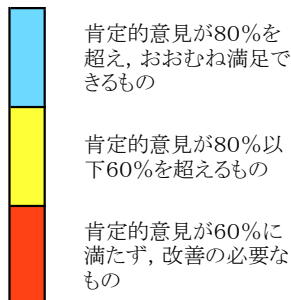
教師の回答

設問項目		R3年度	R3中間	R2年度	R1年度
特別活動 総合学習 部活	19 生徒会活動や部活動に自主的・積極的に取り組んでいる。	78.9%	80.4%	75.2%	75.4%
	20 部活動ガイドラインを守り、活動ができている。	79.6%	75.7%	78.6%	81.3%
安全教育 環境教育	21 事故、不審者、災害等から身を守る方法を知っている。	92.6%	95.0%	92.0%	89.4%
	22 学校の施設・設備は安全である。	80.0%	84.0%	75.1%	65.5%
	23 時間いっぱい清掃に取り組んでいる。	89.5%	86.0%	85.3%	83.1%
人権教育	24 学校や先生は子ども同士のトラブルや悩みなどに素早く対応してくれる。	86.3%	87.9%	80.1%	83.1%
	25 いじめや差別のない楽しい学級や仲間をつくらうとしている。	93.7%	95.7%	92.0%	89.8%
学校行事	26 学校行事や講演会は、楽しく、充実している。	92.6%	92.5%	88.1%	89.8%
学校公開 情報公開 地域家庭連携	27 学校の教育方針や教育活動のねらいを理解している。	78.5%	80.3%	76.9%	72.5%
	28 地域の行事に参加している。	33.7%	33.2%	34.6%	48.6%
	29 学校は授業参観や学校行事などを積極的に公開している。	77.5%	84.3%	82.8%	79.9%
	30 学校からの便りを保護者にわたしている。	84.2%	87.5%	86.7%	79.6%

設問項目		R3年度	R3中間	R2年度	R1年度
特別活動 総合学習 部活	19 子供は、生徒会活動や部活動に主体的・積極的に取り組んでいる	79.0%	76.2%	75.5%	69.5%
	20 部活動は、時間を守り、活動ができている	76.2%	81.0%	80.0%	86.0%
安全教育 環境教育	21 子供は、事故、不審者、災害等から身を守る方法を知っている	86.5%	88.7%	85.4%	77.4%
	22 学校の施設・設備は安全である	85.3%	83.1%	82.1%	73.8%
	23 学校は、美しく整えられている	94.8%	92.3%	88.9%	84.9%
人権教育	24 学校や先生は子ども同士のトラブルや悩みなどに迅速に対応している	91.7%	87.7%	82.4%	79.6%
	25 学校や先生は、いじめや差別のない学校づくりをしている	90.9%	87.4%	83.1%	81.0%
学校行事	26 学校行事や講演会は、楽しく、充実している	87.7%	87.0%	90.4%	87.1%
学校公開 情報公開 地域家庭連携	27 保護者は、学校の教育方針や教育活動のねらいを理解している	85.3%	82.4%	80.0%	71.3%
	28 学校は、積極的にPTA活動に協力したり、地域との連携を大切にしようとしている	94.4%	92.9%	91.0%	90.0%
	29 学校は、授業参観や学校行事などを積極的に公開している	90.1%	93.4%	89.7%	94.3%
	30 学校の便りから、学校の取り組みや生徒の活動の様子がよく伝わる	90.9%	89.9%	86.6%	86.0%
	31 学校から発信されるホームページ、マチコミメールは役に立っている	96.8%	94.0%	94.8%	86.0%

設問項目		R3年度	R3中間	R2年度	R1年度
特別活動 総合学習 部活	19 生徒は、生徒会活動や部活動に主体的・積極的に取り組んでいる	96.7%	93.3%	96.2%	84.6%
	20 部活動は時間を守り、運営ができている	96.7%	96.6%	100.0%	100.0%
安全教育 環境教育	21 生徒は地震、火災、不審者など、危機に対応する能力が育っている	93.3%	96.7%	84.6%	73.1%
	22 学校の施設・設備は安全である	73.3%	66.7%	46.1%	46.2%
	23 学校を美しく整えている	96.7%	100.0%	100.0%	92.3%
人権教育	24 子ども同士のトラブルや悩みなどに迅速に対応している	96.7%	100.0%	100.0%	100.0%
	25 いじめや差別を素早く見抜き、情報共有し、初期対応と未然防止に努めている	96.7%	100.0%	100.0%	96.2%
学校行事	26 学校行事や講演会は、教育効果を上げている	96.7%	100.0%	92.3%	100.0%
学校公開 情報公開 地域家庭連携	27 学校の教育方針や教育活動のねらいを伝えている	96.7%	96.7%	88.5%	92.3%
	28 積極的にPTA活動に協力したり、地域との連携を大切にしようとしている	83.3%	93.4%	76.9%	92.3%
	29 学校は授業参観や学校行事などを積極的に公開している	93.3%	100.0%	88.4%	100.0%
	30 学校の取り組みや様子などを保護者に伝えている	96.7%	93.3%	80.7%	100.0%
	31 学校はホームページ、マチコミメールを利用して、積極的に情報発信している	100.0%	93.3%	88.4%	100.0%
特別支援	32 ひとりひとりの教育的ニーズに応じた特別支援教育を推進している	96.7%	96.7%	84.6%	73.1%
学校経営	33 教職員間で「報告・連絡・相談」が日常的に行われ、教職員間の共通理解が図られている	100.0%	100.0%	84.6%	92.3%
	34 教職員間のコンプライアンス、情報セキュリティが徹底されている	96.7%	100.0%	84.6%	92.3%
	35 研修等に積極的に参加するなど、資質向上に努めている	100.0%	96.7%	88.5%	100.0%
資質向上	36 校務分掌・組織は適切に構成され、機能している	100.0%	100.0%	92.3%	84.6%
	37 教育活動全般において、職員同士が協力して取り組んでいる	100.0%	100.0%	84.6%	92.3%

※ アンケートの数字は、「そう思う」「ややそう思う」の肯定的意見を合計したものです。



学校評価【年度末】における反省と課題

①生徒の調査について

生徒の中間評価では、設問項目1～7, 10, 11, 15～18, 21～26, 30の質問項目について、「よくあてはまる」「ややあてはまる」が80%を大きく超えており、概ね満足しているといえる。また、全調査項目のうち、80%以上の項目が、昨年度調査の15項目よりは増加しているが、本年度中間評価で23項目だったが、20項目に減少している。

「学校生活・生活指導」（設問1～8）の分野では、設問項目6「先生は困ったことや悩んでいることの相談にのってくれる。」は、87.4%と高い数値ではあるが、その数値が90%を超えることと、「ややあてはまる」と回答した30.5%が「よくあてはまる」の56.8%の回答に改善されるように、より生徒に寄り添った助言や指導を進めていきたい。設問項目8「提出物を忘れずに出している」では、中間評価の84.3%、昨年度末の79.7%よりも低い77.55であった。提出物をきちんと出せるように、声かけのみにとどまらず、提出物の内容やその設定手段についても再考する必要がある。

「学力・学習指導」（設問9～12）の分野では、設問項目9「自分の考えや意見を伝える力など、表現できる力がついている。」は、76.8%と中間調査と比べても10.2%の増加が見られる。NIEへの取り組みや、授業でのタブレット活用に生徒達が意欲的に取り組めた成果と考えられる。一方で、設問項目12「朝読書以外にも読書をしている」は、昨年度の47.6%よりも低下傾向にある。タブレット導入で、紙媒体に触れる機会が減少したことも要因にあると考えられ、今後の課題であると考え、紙媒体とタブレットの両立を進めるための検証に取り組む、改善していきたい。

「道徳教育」（設問15～18）については、すべての項目で80%を超える高い結果となった。特に、最重点目標に挙げた設問項目17の「『とことん続ける目標』で、自信につながるようになった」は、令和2年度調査の76.2%から今年度中間評価は82.2%へと、そして今回の評価では84.9%と右肩上がりの向上が見られる。学年別のデータでは、「よく当てはまる」の回答が1年生(34.7%)、2年生(41.0%)、3年生(56.7%)のように高学年ほど高い値となり、板野中学校2021年度重点行動目標の浸透状況が見えてきた。

「人権教育」（設問24, 25）でも、すべての項目で80%を超える高い結果となっており、最重点目標の一つである「学校や先生は子供同士のトラブルや悩みなどに素早く対応してくれる。」は86.3%となり、中間調査の87.9%からは若干の減少も見られるが、昨年度の数値から6.2%の向上となった。「よく当てはまる」の回答が53.5%と過半数を越えており、他の設問項目と比べても「よく当てはまる」の回答率が高くなっている。

『明日への扉』での毎日の目標設定と振り返りにしっかりと取り組める生徒達の頑張り、『明日への扉』や『とことん続ける目標』を通じて、生徒と教員、保護者と教員の相互の関係の深まりを実感できる結果となった。今後とも、「自立型人間の育成」に向けてさらに高められるように努力したい。

今後の課題は設問項目8, 9, 12, 13, 14, 19, 20, 27, 28, 29である。しかし設問項目17, 24は引き続き最重点目標とする。「とことん続ける目標」の徹底、明日への扉を使った振り返りへの取り組みを通して、自己肯定感をさらに磨き、それによって学習意欲をさらに増加させるよう取り組んでいく。

また、学校からの情報発信力をさらに向上し、いじめ対応を素早く、スピード感をもって対処し、学習の土台となる「人間力づくり」「人間関係づくり」を最優先に引き続き取り組みたい。

②保護者の調査について

保護者の年度末評価の結果において、全30問の設問項目のうち、（中間調査時には23問）22問が昨年度の回答よりも「よくあてはまる」「ややあてはまる」が増加している。

設問項目1～7の学校生活全般については、「よくあてはまる」「ややあてはまる」が80%を超えており、90%以上の回答や、「よくあてはまる」の回答だけで80%を超えるものもあり、大変満足していただいているといえる。また、これらの回答は生徒の回答とも類似している。昨年までのデータと比較しても、若干下がったものが2項目あるが、その他の設問項目では少しずつ向上している。好評価の中でも特に登下校の生徒の評価がよく出ている。特に「子供は、自転車で登校するときはヘルメットをかぶっている」の調査は、「よくあてはまる」だけで、89.3%の回答があり、「全くあてはまらない」の回答は1.6%となっている。しかし、生徒の調査からも確認される課題としては、設問項目8「子供は、提出物を忘れずに出している。」では、「よくあてはまる」「ややあてはまる」が75.8%である。生徒達が提出物がきちんと出せるように、声かけのみにとどまらず忘れずに出せるように提出物の内容とその設定方法について、見直していきたい。

「子供は、自分の考えや意見を伝える力が身についている。」の調査では、R1年度68.8%、R2年度73.4%となっていたが、今年度調査でも73.4%となり、保護者の方々の子供に対する評価が全く同じ数値となっている。「よくあてはまる」が26.6%、「ややあてはまる」が46.8%と少しずつ増加しているが、「子供は、将来の夢や希望の実現に向けて考えている。」において「よくあてはまる」17.1%となっており、生徒の夢や、考え、意見を保護者に見てもらったり、聞いてもらったりする情報発信をさらに強化する必要がある。また、「子供は『とことん続ける目標』で、自信につながっている。」の肯定的な意見がR1年度の57.3%からR2年度は66.2%、R3年度中間調査では71.2%、そして今回の年度末調査では79.4%に伸びてきた。保護者に「とことん続ける目標」の取組が少しずつ浸透してきたと言える。この活動は家庭教育と学校教育が一体となって取り組みたいものでもあり、生徒が設定している目標を保護者に知ってもらうとともに、振り返りシートの保護者の記入について協力を依頼することで、学校と家庭が歩調を合わせて生徒の自己肯定感の育成をさらに進めていきたい。

人権教育の設問項目24, 25において、肯定的な意見は前回の中間調査をしのぐ、90%を超えた結果が出ている。講演会等で積極的に保護者の参加も勧めてきた成果だと考える。

保護者への情報発信はいずれの設問項目においても好評価となっている。今年度、保護者が学校を訪問するPTA活動や学校行事などは新型コロナウイルス感染症の感染防止対策もあり、その機会が増やせていない。設問項目29「学校は、積極的にPTA活動に協力したり、地域との連携を大切にしようとしている。」では、中間調査の93.4%より減少し90.1%となってしまった。反面、「学校から発信されるホームページ、マチコミメールは役に立っている。」では、96.8%の好意的な回答が得られた。今後もコロナ禍であるからこそ、きめ細やかな情報発信に努めていきたい。そして、保護者からの意見や情報が、教員に日常的に伝わる情報交換をさらに高めていきたい。

令和3年度 学校関係者評価委員会 評価表

評価基準 **4** : 重点目標が十分達成できている **3** : 重点目標がおおむね達成できている
2 : 重点目標があまり達成できていない **1** : 重点目標がほとんど達成できていない

項目	重点目標	自己評価（学校）		改善策	学校関係者評価	
		達成状況	4段階評価		4段階評価	ご意見
1 学校生活・生活指導	<ul style="list-style-type: none"> 学校での生活を楽しく過ごす。 学校や学級で、いじめもなく友だちと仲よく過ごす。 場に応じて、聞こえる挨拶をする。 遅刻をしないなど時間を守って生活してする。 自転車で登校するときにはヘルメットをかぶる。 先生は困ったことや悩んでいることの相談にのる。 予鈴着席、私語をしないなどの規律ある授業ができる。 提出物を忘れずに出す。 	<p>設問項目6「先生は困ったことや悩んでいることの相談にのってくれる。」は、87.4%と高い数値ではあるが、その数値が90%を超えることと、「ややあてはまる」と回答した30.5%が「よくあてはまる」の56.8%の回答に改善されるように、より生徒に寄り添った助言や指導を進めていきたい。また、設問項目8「提出物を忘れずに出している」では、中間評価の84.3%、昨年度末の79.7%よりも低い77.55であった。提出物をきちんと出せるように、声かけのみにとどまらず、提出物の内容やその設定手段についても再考する必要がある。</p>	4	<ul style="list-style-type: none"> 巡視や面談・声かけ等を増やし生徒の日々の変化を素早く察知する。 表現できる力がアップしてきており、書く力もついてきた。 「学校での生活は楽しい」、「学校や学級で、いじめもなく仲よくすごしている」は、限りなく100%に近づきたい。 生徒会の挨拶運動の活動や教職員の登下校指導を毎日行い、聞こえる声で挨拶ができるまで呼びかける。 着席後に取り組める、学習課題を準備し、直ちに始める習慣とルーティーンをつくる。 <p>○今後の課題と重点目標 VI. 学校や先生は子供同士のトラブルや悩みなどに素早く対応してくれる。 VII. いじめや差別のない楽しい学級や仲間をつくらうとしている。</p>	4.0	<ul style="list-style-type: none"> 中学校三年生の面接練習の中で、板野中学校の特徴や良い点を質問したときに、挨拶について答えた生徒が何人かいた。挨拶ができていると、自覚できていることが素晴らしいと思った。 ほとんどの生徒が「学校生活は楽しい。いじめもなく楽しく過ごせている。」と答えているのは、とてもすばらしいと思います。 「学校生活が楽しい」と生徒・保護者共に93%を超えてあるのは、先生方の尽力があつてこそと感じます。 提出物に対しては、そんなに出していないものかと、びっくりしました。 授業態度の先生の評価が高いので、安心しました。 保護者の評価も良く、先生方が熱心に指導してくださっているからだと思います。 中学校を訪れたときに、いつも会う生徒、会う生徒が先に挨拶をしてくれて、強化している「聞こえる挨拶」の取り組みの成果を感じました。 どの項目を見ても、今まで積み上げてこられた取り組みが、成果として現れているのが一目瞭然で、大変素晴らしい事だと感心した。

項目	重点目標	自己評価（学校）		改善策	学校関係者評価	
		達成状況	4段階評価		4段階評価	ご意見
2	<ul style="list-style-type: none"> 自分の考えや意見を伝える力など、表現できる力をつける。 授業の内容を理解しする。 毎日、家庭学習をする。 朝読書以外にも読書をする。 	<p>設問項目9「自分の考えや意見を伝える力など、表現できる力がついている。」は、76.8%と中間調査と比べても10.2%の増加が見られる。NIEへの取り組みや、授業でのタブレット活用に生徒達が意欲的に取り組めた成果と考えられる。一方で、設問項目12「朝読書以外にも読書をしている」は、昨年度の47.6%よりも低下傾向にある。タブレット導入で、紙媒体に触れる機会が減少したことも要因にあると考えられ、今後の課題であると考え。紙媒体とタブレットの両立を進めるための検証に取り組み、改善していきたい。</p>	3	<ul style="list-style-type: none"> 鳴潮視写を継続し、表現力の向上と全教科共通の学びのスタイルを確立する。 学習の土台となる「人間力づくり」「人間関係づくり」を最優先に取り組む。 <p>◎今後の課題、重点目標 I、自分の考えや意見を伝える力など、表現できる力がついている。 II、朝読書以外にも読書をしている</p>	3.0	<ul style="list-style-type: none"> 読書離れは寂しく感じる。相手の言いたいことを理解する力につながるし、大切だと思う。 自分の考えや意見を他人に伝えることは大人でも難しい事です。地道な努力を続けてほしい。 読書は大事だと思いますが、今の時代、難しいのかもしれない。朝読書の時間、短時間でも習慣がつくのは大切だと思う。 「自分の考えや意見を伝える力など、表現できる力がついている。」では、「教師と生徒・保護者で意見のずれを感じる」とあり、大切な力であり、先生方のご意見を聞きたいと感じた。 面接指導時に、個々の表現力の差を感じた。家庭や学校で制約されず、自由に自分の考えや思いを話す機会が少ないのでは、と感じました。
3	<ul style="list-style-type: none"> 将来の夢や希望の実現に向けて考えている。 自分の良いところを知る。 	<ul style="list-style-type: none"> 「子供は、将来の夢や希望の実現に向けて考えている。」が「よくあてはまる」の回答が少ない。 「自分には良いところがある」の肯定的な意見は生徒77.2%に対し、保護者94.8%と差があり、自己肯定感のさらなる向上が求められる。 	3	<ul style="list-style-type: none"> 「とことん続ける目標」の徹底で自己肯定感を磨き、それによって学習意欲を増加させるよう取り組む。 <p>◎今後の課題、重点目標 III、自分には良いところがある。</p>	3.0	<ul style="list-style-type: none"> 面接練習で、生徒それぞれの進路に対する意識の違いは、質問の答えや姿勢に大きく現れると感じた。 以前から、板野中学校の生徒の自己評価が低いような気がしている。広く世界に眼を向けて、自分で進路を選んでほしい。 将来の夢や希望を70%の生徒が持っているのに対して、親目線からは評価が低い。中学生にとって、目の前の高校入試が重要になり、将来の夢までは語らないのかも。 将来の夢や希望の実現に向けてでは、生徒・教師・保護者の評価が違い保護者は低く感じている。
4	<ul style="list-style-type: none"> 社会のルールを守って生活する。 自分が大切な存在であることを知る。 「とことん続ける目標」で、自信につなげる。 道徳の時間に積極的に取り組む。 	<p>すべての項目で80%を超える高い結果となった。特に、最重点目標に挙げた設問項目17の『「とことん続ける目標」で、自信につながるようになった』は、令和2年度調査の76.2%から今年度中間評価は82.2%へと、そして今回の評価では84.9%と右肩上がりの向上が見られる。学年別のデータでは、「よく当てはまる」の回答が1年生(34.7%)、2年生(41.0%)、3年生(56.7%)のように高学年ほど高い値となった。</p>	4	<ul style="list-style-type: none"> 保護者に『「とことん続ける目標」の取り組みの浸透させ、家庭教育と学校教育が一体となって取り組む。 <p>◎今後の課題、最重点目標 IV、自分が大切な存在であると思っている。 V、「とことん続ける目標」で、自信につながるようになった。</p>	3.5	<ul style="list-style-type: none"> 自分が大切な存在だと自覚できている数値が昨年よりも上がっていることが、とてもうれしい。 「継続は力なり」とことん続ける目標で自信をつける。大変良いことです。 「社会のルールを守っている」との肯定が多く安心しました。自分が大切な存在との感じ方は、親と子では少しずれがあるのでしょうか？親も子どもに対して、口に出して大切な存在と言ってあげるべき。 「とことん続ける目標」の肯定的な意見が増えていた。それを自信につなげてほしい。 「とことん続ける目標」が教職員の100%に対して保護者・生徒の評価が低いのが気になる。

項目	重点目標	自己評価（学校）		改善策	学校関係者評価		
		達成状況	4段階評価		4段階評価	ご意見	
5	特別活動 総合学習 部活	<ul style="list-style-type: none"> 生徒会活動や部活動に自主的・積極的に取り組む。 部活動ガイドラインを守り、活動する。 	<ul style="list-style-type: none"> 積極的に取り組む意欲はあったが、新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止策で中止・縮小になった活動が多数あり、肯定的な意見が伸びていない。 部活動ガイドラインは守れているが活動できない期間が長期間あり、肯定的な意見が伸びていない。 	2	<ul style="list-style-type: none"> 講演会や学校行事を生徒会が運営することを増やし、生徒会の活動が見える化を図る。 部活動の入部率や継続率を高めていきたい。 	3.0	<ul style="list-style-type: none"> 「学びのかけ橋」では、中学生が中心となり、他の機関に働きかけをしているのはとても良い。生徒が活動を通しての発見や、喜んでもらった体験、生徒同士で計画した一体感など、とても良い経験になった。 今の時期部活も思うようにできなかったのだと思う。 活動時間があまりない中でも、頑張っている姿がありました。また、顧問先生、保護者、地域の方々との連携も良く順調な部活動となっている。
6	安全教育 環境教育	<ul style="list-style-type: none"> 事故、不審者、災害等から身を守る方法を知る。 学校の施設・設備を安全にする。 時間いっぱい清掃に取り組む。 	<ul style="list-style-type: none"> 避難訓練では生徒や教職員に日時の予告なしに行い、訓練に真剣さが出てきた。 校舎の外壁改修、体育館と武道館のエアコン設置、校舎内のLAN工事が進み、設備の充実が図られている。 無言清掃に取り組むことで、清掃時間が午前中を振り返る時間になり、単なる清掃時間でなくなり、より充実した時間になったきた。 	4	<ul style="list-style-type: none"> 避難訓練の形態や実施時期を、事前連絡なしに行い、より真剣さ高め、実際の発生したときを想定し、改善点をリアルタイムで話し合う。 無言清掃を徹底し、清掃を充実させるだけでなく、午前中の行動・取り組みを振り返る時間とし、午後の活動を充実させる。 	4.0	<ul style="list-style-type: none"> コロナ感染症対策には、大変気を遣ってこられたと思う。 面接練習で、無言清掃について述べた生徒もいて、定着してきたと感じる。 清掃に真面目に取り組んでいる様子がうかがえて良いと感じる。 自分を守る意識が高いと感じる。 清掃についても頑張っている様子が見える。良い習慣は一生自分を助けてくれます。 校門前道路が拡張され、見通しは良くなったのですが、その分通行車両のスピードが出て、注意が必要だと感じた。

項目	重点目標	自己評価（学校）		改善策	学校関係者評価	
		達成状況	4段階評価		4段階評価	ご意見
7 人権教育	<ul style="list-style-type: none"> 学校や先生は子供同士のトラブルや悩みなどに素早く対応する。 いじめや差別のない楽しい学級や仲間をつくらうとする。 	すべての項目で80%を超える高い結果となっており、最重点目標の一つである「学校や先生は子供同士のトラブルや悩みなどに素早く対応してくれる。」は86.3%となり、中間調査の87.9%からは若干の減少も見られるが、昨年度の数値から6.2%の向上となった。「よく当てはまる」の回答が53.5%と過半数を越えており、他の設問項目と比べても「よく当てはまる」の回答率が高くなっている。	3	<ul style="list-style-type: none"> いじめ対応を素早く、スピード感をもって対処する。 <p>◎今後の課題, 最重点目標 V, 「とことん続ける目標」で, 自信につながるようになった。 ○今後の課題, 重点目標 VI, いじめや差別のない楽しい学級や仲間をつくらうとしている。</p>	3.4	<ul style="list-style-type: none"> コロナの感染もあったようだが、大きな数値の変動もなく、大きな問題もなく良かった。 先生方が、子ども達のトラブルや悩みに迅速に対応してくれているようで、心強いです。 いじめのない学級がいいです。100%ないとは言えませんが、ないことを祈ります。 講演会などで、積極的に保護者への参加も勧めてくださり、今後もそのような機会をもっていただきたい。学年便りや学級通信でも、子ども達が人権教育で学んできたことや感じたことに触れることができるのが良かったです。
8 学校行事	<ul style="list-style-type: none"> 学校行事や講演会を、楽しく、充実させる。 	<ul style="list-style-type: none"> 生徒の肯定的な意見が9割を超えており、保護者の意見もそれに近い。 新型コロナウイルス感染症対策で学校行事が中止や延期、縮小されたこともあり、生徒・教職員の肯定的な意見が下がっている。 	2	<ul style="list-style-type: none"> 学校行事で生徒の夢や、考え、意見を保護者に見てもらったり、聞いてもらったりする活動を充実させる。 講演会等は保護者も参加・研修できるように計画する。 	3.0	<ul style="list-style-type: none"> この状況の中、できる限りの行事を行ってくれたことが、数値から読み取れる。 コロナ禍で学校行事に参加することはできませんでしたが、生徒達は高評価されているので良かったです。 講演会には参加できませんでしたが、参加したいと思う内容であり、充実していると思いました。また、学校行事では、コロナ禍で残念ながら中止になったり、保護者が参加する機会も減ったりしましたが、先生方が工夫して行ってくださったり、アンケートで、子ども達の評価も良かったので良かったです。 講演会等現在の行事を続けてほしい。

項目	重点目標	自己評価（学校）		改善策	学校関係者評価	
		達成状況	4段階評価		4段階評価	ご意見
9 学校公開 情報公開 地域家庭連携	<ul style="list-style-type: none"> 学校の教育方針や教育活動のねらいを理解する。 地域の行事に参加する。 学校は授業参観や学校行事などを積極的に公開する。 学校からの便りを保護者にわたす。 	<p>保護者への情報発信はいずれの設問項目においても好評価となっている。今年度、保護者が学校を訪問するPTA活動や学校行事などは新型コロナウイルス感染症の感染防止対策もあり、その機会が増やせていない。設問項目29「学校は、積極的にPTA活動に協力したり、地域との連携を大切にしようとしている。」では、中間調査の93.4%より減少し90.1%となってしまった。反面、「学校から発信されるホームページ、マチコミメールは役に立っている。」では、96.8%の好意的な回答が得られた。今後もコロナ禍であるからこそ、きめ細やかな情報発信に努めていきたい。</p>	3	<ul style="list-style-type: none"> 保護者からの意見や情報を、教職員に日常的に伝え、情報交換を高める。 学校からの情報発信力(学年や学級の通信、メール配信を増やし、コロナ禍で学校訪問が減っていることを補い、さらに連携を深める。 学校と家庭が歩調を合わせ生徒の自己肯定感の育成を一体となっていく。 生徒の夢や、考え、意見を保護者に見てもらったり、聞いてもらったりする情報発信を強化する。 『とことん続ける目標』を保護者に知ってもらう。 	3.2	<ul style="list-style-type: none"> 学校の努力が数値に出ている。 学校からの手紙が、生徒から保護者に渡る事は普通のようななかなかできない。この数値は素晴らしい。 校長室日誌も、時々読んでいます。 新型コロナウイルス感染が落ち着いた後の取り組みに期待しています。 地域の行事に参加できていないようですが、コロナ禍だったので、いろいろな行事が中止になったためでしょうか。以前の生活に戻ったら、どんどん参加してもらいたい。 学校便りや学級通信など、学校の取り組みや生徒の様子、感じたことなどがよくわかり、また、ホームページやマチコミメールも好評なようで、今後も情報発信をよろしくお願いいたします。 ホームページ、新聞などのマスコミ等で情報発信され、学校の様子はよく伝わっていると思います。

(様式1)

令和4年度「大学連携強化！学校力向上拠点校事業」 実施計画書

「大学連携強化！学校力向上」拠点校

学校名	校長名
板野町板野中学校	山田 匠

1 現状と課題

昨年度は GIGA スクール構想に伴う授業の ICT 化の基盤づくりとなる1年となった。学校全体で授業の ICT 化に向けてどのように取り組んでいくか方向付けを行うことができ、全教職員で協力しながら、それぞれの教科等の特性に合う ICT 活用方法を見いだすことができた。しかし、まだ ICT を活用した「思考・判断・表現」の資質・能力の育成に十分には至っていないという課題が残った。

本事業実施2年目となる本年度、ICT を子どもの「思考力・判断力・表現力」を培うツールとして捉え、調べ学習や探究的な学習を積極的に取り入れ、GIGA スクール構想を次の段階へと進めていきたい。

板野町では生徒指導を軸とした小中の連携は以前から行っており、昨年度の本事業への取組は、授業力向上を軸とした教職員の連携から、お互いの気付きや学びを共有する機会となった。教員の授業力と児童生徒の「思考力・判断力・表現力」向上を目指し、町内小中学校の学校力向上へとつなぎたい。

2 拠点校として取り組みたい実践研究テーマ

- ・探求的な学習過程を自律的に回す思考力の育成
- ・タスクの大幅な再設計を可能にする変容段階の情報活用能力の習得
- ・教員の授業力向上・児童生徒の「思考力・判断力・表現力」向上の視点からの小中連携の強化

3 実践研究の内容等

月	内容等
4月	○全国学力・学習状況調査、徳島県学力ステップアップテスト実施
4月	○令和4年度第1回学校力向上拠点校事業連絡協議会
5月	○学力向上実行プラン作成検討会（拠点校・協力校）
6～7月	○協力校の公開授業参観 【内容】①事前検討会 ②研究授業 ③授業研修会
8月	○GIGA スクール構想に基づくタブレットでの授業づくり研修
8月下旬～ 9月上旬	○全国学力・学習状況調査、徳島県学力ステップアップテストの結果と課題を共有し、これからの取組を再検討する。
10～11月	○小中授業づくり交流会 ・板野中学校での「探求的な学習過程を自律的に回す思考力」向上に向けた取組の共有 ・町内各小での「思考力・判断力・表現力」育成に向けた研究授業の共有
11～1月	○町内小中の校種別の枠を超えた教職員テーマ別研修
1～2月	○小中授業づくり交流会 【内容】学力向上実行プランを基にした協議・研修会

4 成果普及の方法等

全国学力・学習状況調査、徳島県学力ステップアップテストの結果と課題の共有や、授業づくり交流会・研究授業等で、各小・中の取組を公開することにより、成果の共有をする。

(別紙様式1)

令和4年度 幼・小・中連携推進事業 「学びのかけ橋」プロジェクト実施計画書

教育委員会名	板野町教育委員会	担当者 職・氏名	主事・三原 侑也
--------	----------	----------	----------

研究地域指定校

幼稚園等	板野保育園、板野東幼稚園、板野西幼稚園、板野南幼稚園
小学校	板野東小学校、板野西小学校、板野南小学校
中学校	板野中学校

1 実践研究テーマ

町内教育施設における合同避難訓練の実施 & PBS を柱にした人材育成を目的とした幼・小・中の連携

2 現状と課題

保幼小中一貫した町としての人材育成方針の共有、災害対策の2点が喫緊の課題である。情報化が進む社会において、リアルな場面で生徒が他者と建設的に関わる力を育成するために、ポジティブな行動支援(PBS)を進める必要がある。また、南海トラフを震源とする西日本大震災が20年~30年の間に発生すると考えられているが、災害に対する備えは、各学校・園ごとに異なり、その時に備えたシステムが確立されていないのが現状である。

3 実践研究の主な内容や方法等

月	研究の内容及び方法	期待される効果	幼小連携での実施
4	中学校学校公開 幼小中連絡会議の開催(阪根特任教授、県教委、町内各校園)	保護者への啓発 幼小中の円滑な接続	教職員による生徒指導連絡会
5	中学校を会場とした幼小学校教員の授業参観及び交流 中学1年生の情報交換 町内テーマ別研修(学人研)	教員の資質の向上 幼小中の円滑な接続 教員の資質の向上	幼小合同避難訓練 幼小合同運動会 こいのぼりの会
6	小学校を会場とした幼中学校教員の授業参観及び交流	幼小中の相互理解	
7	コミュニティスクール共同会議	幼小中の円滑な接続および相互理解	
8	PBSについての学習(学校人権教育研究会生徒指導部会研修と兼ねる)(担当西小)	教員の資質の向上	
9	板中祭(体育の部・予行) 板中祭(体育の部、文化の部) 講演会	児童・生徒の交流 地域間の交流 自己肯定感の向上	幼小合同避難訓練
10	中学校学校公開 リモートによる読み聞かせ(小学1年生と中学1年生) 中学事後アンケート 幼小合同避難訓練(幼稚園と小学校) 中保合同避難訓練 町内生徒指導連絡協議会(保幼へは文書)	保護者への啓発 児童・生徒の交流 今後の取組への課題確認 幼小の円滑な接続 中保の円滑な接続 幼小中の相互理解	
11	町内テーマ別研修 (学校人権教育研究会と兼ねる) 講演会	教員の資質の向上 自己肯定感の向上	秋のお楽しみ会
12	リモートによるクリスマス会(幼稚園と中学3年生) 中学事後アンケート 保育実習(保育園児と中学3年生)	園児・生徒の交流 今後の取組への課題確認 園児・生徒の交流	人権学習発表会見学(幼→小) 発表会見学(小→幼) クリスマス会
1	リモートによる進路・生活相談(小学6年生と中学2年生) 今後の取組への課題確認 町内生徒指導計画作成会議(保幼へは文書) 町内テーマ別研修(学人研として)	小中を見通した教育ビジョンの共有 児童・生徒の交流 今後の取組への課題確認 幼小中の円滑な接続および相互理解 教員の資質の向上	幼小合同避難訓練 給食における配膳の仕方を学ぶ交流
2	町内生徒指導計画作成会議	幼小中の円滑な接続および相互理解	小学校体験入学
3	幼小中連絡会議の開催	幼小中の円滑な接続	

幼・小・中連携推進事業「学びの架け橋」プロジェクト

1 趣旨

近年、いわゆる「小一プロブレム」、「中一ギャップ」等が指摘される中、学校教育には、幼稚園、小学校、中学校のすべての教職員の共通理解のもと、連続性のある教育活動を推進していくことが、これまで以上に求められている。

そこで、徳島県教育委員会(以下「県教育委員会」という。)は、長期にわたる研修や継続的な相互交流を行うなど、幼・小・中の教職員が連携に努めることにより、それぞれの校種において幼児児童生徒の実態や指導の仕方等の違いを体験的に理解するとともに、円滑な接続について研究できるよう本事業を実施し、その成果を県内に普及する。

2 事業内容

県内2地域程度を研究地域に指定し、以下の観点を踏まえて具体的な研究課題を設定し、学校間の円滑な接続に関する研究を行うものとする。

また、本事業の円滑な実施に資するため、大学、県教育委員会等による指導・助言・支援を行う。

幼小中連携(例)

- ① 幼小中を見通した教育ビジョンの共有
- ② 幼稚園教育・小学校教育・中学校教育の相互理解
- ③ 地域の教育力を生かした幼小中連携
- ④ 幼小中接続に係るコーディネート機能の充実
- ⑤ 幼児・児童・生徒の交流
- ⑥ その他(就学前等)

→今回は①②を中心にしてはどうか？

3 事業の期間

令和4年度・5年度

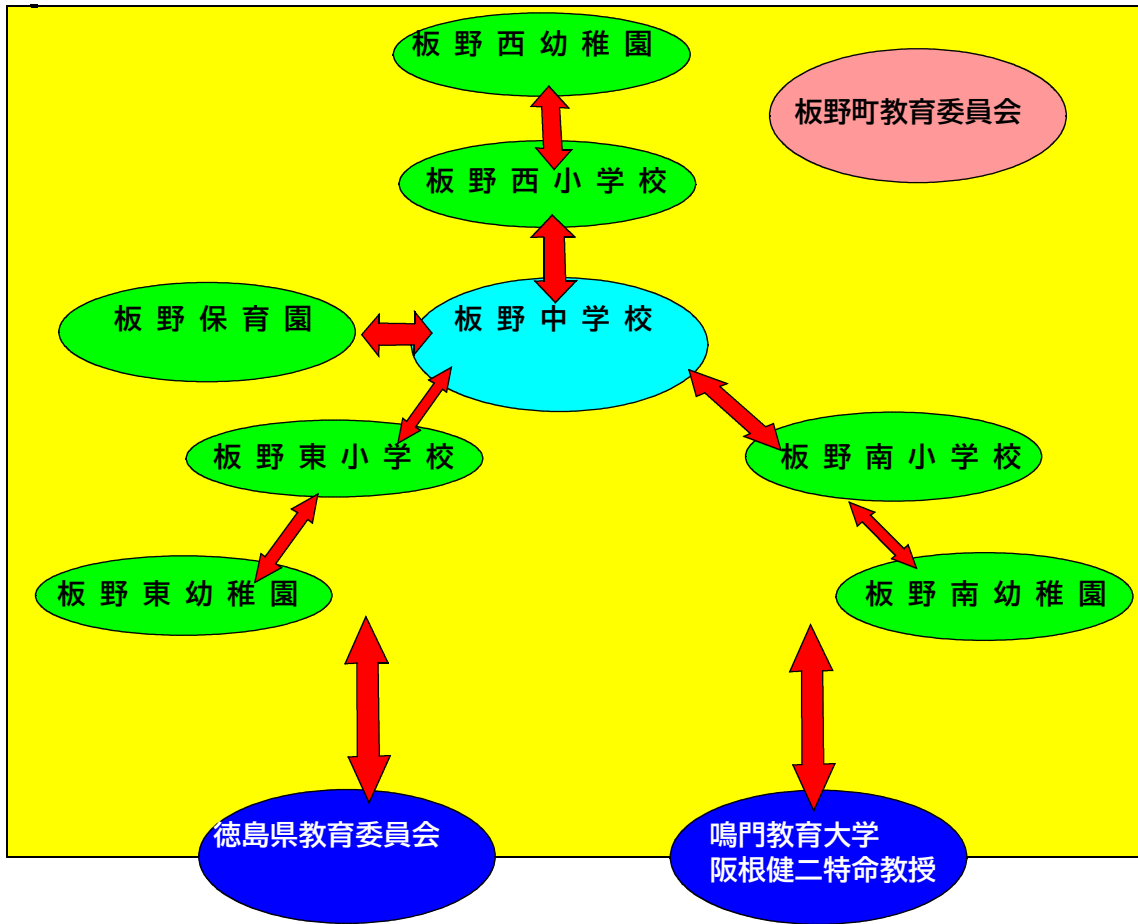
4 事業の完了の報告及び成果の普及

- (1)年度末に事業実施報告書を提出する(A4 2枚程度)
- (2)あわ教育発表会等において、本事業を通じて得られた研究成果を発表する。(板野中)
- (3)事業実施報告書など、本事業の成果については、県教育委員会において公表できるものとする。

5 その他

- (1)それぞれの交流については、事務局の板野中学校に事前に連絡をする。
- (2)それぞれの交流の様子を画像記録し、希望があれば所属長の了解を得た上で共有できるものとする。
- (3)全体会については、町教委事務局より文書にて案内を作成・送付する。
- (4)全体会については、できるだけ文書等で連携し、必要性が高い場合にのみ実施する。(保・幼の実態を考慮する)
- (5)各校・各園での個別な交流(職員・幼児児童)については、FAXまたはメールで事務局板野中学校にお知らせいただくとありがたい。(案内等は各校で作成)
- (6)本事業が終了した後も、自然な交流が根付くようにする土台を本事業を利用し作る。

学びの架け橋 イメージ図



担当教諭:板野中学校 村上 晃一 教諭
 板野東小学校・板野西小学校・板野南小学校・板野中学校
 の小中学校の兼任補職辞令交付済み

町教委担当:三原 侑也 主事

各校担当者: 板野保育園 ()
 板野東幼稚園 ()
 板野西幼稚園 ()
 板野南幼稚園 ()
 板野東小学校 ()
 板野西小学校 ()
 板野南小学校 ()
 板野中学校 ()

大まかな方向性を「学びの架け橋」プロジェクト推進協議会で決定し、町内教務主任・担当者会で実務をつかさどる。

主な取り組みと内容(新型コロナウイルス対策・学校再開後のスケジュール) 令和4年度
「キャリア教育」を柱とした保幼小中連携

月	内容・方法	予定期日	参加者	期待される効果
4	保幼小中連絡会議	4月下旬	推進協議会委員	方向性の共通理解
6	①中学校を会場とした小学校教員の授業参観	6月上旬	小中教員	生徒の状況確認と指導法の向上
	②中学1年生の情報交換	6月上旬	小中教員	
	③小学校を会場とした中学校教員の授業参観	6月下旬	小中教員	
	④幼小中の担当者とオンラインミーティング	6月下旬	幼小中担当者	
8	①PBSについての学習	8月中旬	幼小中担当者	教員の資質向上
9	①板中祭体育の部・文化の部	9月初旬	小中教員・児童生徒	①学校生活の展望を持たせる ②自立に向けた具体的取組・考え方について考える
	②キャリア講演会	9月下旬	小中教員	
10	①オープンスクール	10月初旬	小中教員・児童	中学校でどのように成長するかイメージさせる 中学校へのQ&A
	②小中生とオンライン交流	10月下旬	小中児童生徒	
11	①保育実習	11月中旬	保中幼児生徒	①園児・生徒の交流による、生徒の自己成長の確認 ②自己肯定感の醸成
	②キャリア講演会	11月下旬	小中教員	
12	①クリスマス会	12月中旬	幼中幼児生徒	幼児・生徒の交流による自己成長の確認 職場体験学習として
	②オンライン企業訪問	12月中旬	中学2年・企業	
1	幼小中生徒指導計画会議	1月下旬	幼小中教員	幼小中共通の育てたい力の共有。接続を意識した教育課程の編成。 キャリアパスポート見直し・新規作成
2	幼小中生徒指導計画会議	2月下旬	幼小中教員	
3	幼小中連絡会議	3月中旬	幼小中教員	・幼小中の円滑な接続 ・小1・中1ギャップ解消

4月		5月		6月		7月		8月		9月	
1	金	第1回職員会 学年部会 教科部会	1	日		1	水	四人権(香川)	1	月	
2	土		2	月	C日課④時間 13:30～面談⑤	2	木	歯科健診(8:45～)	2	火	
3	日		3	火	憲法記念日	3	金		3	水	
4	月	入学生ヘルメット販売 小中連絡会 PTA新旧役員会	4	水	みどりの日	4	土		4	木	
5	火	第2回職員会	5	木	こどもの日	5	日		5	金	教育実習開始 企画委員会
6	水	職員会 職員研修 生徒指導委員会	6	金		6	月	全校集会・郡総体壮行会 企画委員会	6	土	
7	木		7	土		7	火	1年板野支援交流事前学習 内科健診2A・2B(13:30～)	7	日	体育祭予行
8	金	☆着任式・始業式 給食あり 学級写真 職員写真	8	日		8	水	内科健診2C・1A(13:30～)	8	月	
9	土		9	月	職員会(生徒理解)	9	木	内科健診1B・1C(13:30～)	9	火	
10	日		10	火		10	金	北部Aブロック総体 生徒臨休	10	水	文化祭
11	月	☆入学式 13:30 1年学級写真	11	水		11	土	北部Aブロック総体	11	木	山の日
12	火	進級テスト(2・3年) 交通安全教室(1年) 企画委員会	12	木		12	日	北部Aブロック総体	12	金	お盆閉庁日
13	水	新入生テスト(1年) 郡教育会総会 全校集会・対面式・部活動紹介	13	金	心電図(9:00～)	13	月	代休(4/24)	13	土	お盆閉庁日
14	木	☆郡中研修総会(藍住中)午後 ③④身体測定	14	土		14	火		14	日	お盆閉庁日
15	金	内科健診3年(13:30～)	15	日		15	水		15	月	お盆閉庁日
16	土		16	月	企画委員会	16	木	支援学校との交流学習1A ☆職員健康診断(午前)	16	火	
17	日		17	火	ふれあい活動開講式	17	金	教育実習終了	17	水	全中体育大会(～8/25)
18	月	1年知能検査 専門委員会 職員会 生徒指導委員会(指導班・相	18	水	1年眼科検診(13:15～)	18	土	北部Aブロック総体	18	木	
19	火	全国学力・学習状況調査(国・数・理) 1・2年学力ステップアップテスト	19	木		19	日	北部Aブロック総体	19	金	敬老の日 県中学都市陸上
20	水		20	金	3年生修学旅行	20	月	職員会	20	土	PTA奉仕作業
21	木		21	土	3年生修学旅行	21	火		21	日	PTA奉仕作業(予備日)
22	金		22	日		22	水	避難訓練	22	月	
23	土		23	月		23	木	支援学校との交流学習1B	23	火	秋分の日
24	日	PTA参観日・総会・学年部会 午前中で 終了	24	火		24	金	生徒指導委員会(指導班・相談班)	24	水	
25	月	C日課④時間 13:30～面談①	25	水	耳鼻科健診(13:30～)	25	土		25	木	
26	火	C日課④時間 13:30～面談②	26	木	講演会	26	日	PTA球技大会	26	金	職員会 生徒指導委員会(指導班・相談班)
27	水	C日課④時間 13:30～面談③	27	金		27	月	期末テスト(1日目)	27	土	
28	木	C日課④時間 13:30～面談④ 板野支援交流年間計画打ち合わせ	28	土		28	火	期末テスト(2日目) 企画委員会	28	日	
29	金	昭和の日	29	日		29	水	期末テスト(3日目) 全校集会(県総体壮行会)	29	月	始業式
30	土		30	月	教育実習開始(英語・久米) 生徒指導委員会(指導班・相談班)	30	木	支援学校との交流学習1C 四人権(香川)	30	火	①学級役員任命式
			31	火					31	水	少年の主張 板野郡大会?

10月			11月			12月			1月			2月			3月		
1	土	北部Aブロック新人大会	1	火		1	木		1	日	元日	1	水		1	水	
2	日	北部Aブロック新人大会	2	水		2	金		2	月	年始休	2	木		2	木	
3	月	企画委員会	3	木	文化の日	3	土	町人権問題講演会	3	火	年始休	3	金		3	金	企画委員会
4	火		4	金	郡人研?	4	日		4	水	徳島駅伝	4	土	育成型選抜結果通知	4	土	
5	水	3年生1回基礎学力テスト 県人研	5	土		5	月	代休	5	木	徳島駅伝	5	日		5	日	
6	木	⑤⑥板野支援交流(予備日なし)	6	日		6	火	生徒会選挙立ち会い演説会・投票 企画委員会	6	金	徳島駅伝	6	月	企画委員会	6	月	
7	金		7	月	企画委員会・校内教育支援委員会	7	水	2年職場体験①?	7	土		7	火		7	火	一般選抜(学力検査)
8	土	北部Aブロック新人大会	8	火		8	木	2年職場体験②?	8	日		8	水		8	水	一般選抜(面接)
9	日	北部Aブロック新人大会	9	水		9	金		9	月	成人の日	9	木		9	木	一般選抜(追検査・追面接) 3年生修了式
10	月	スポーツの日	10	木		10	土		10	火	始業式 企画委員会	10	金		10	金	卒業式
11	火		11	金	遠足(1,2年)	11	日		11	水	3年第3回基礎学力テスト 課題テスト(1・2年)	11	土	建国記念の日 県中学新人駅伝	11	土	
12	水	⑤⑥1年交流学習リハーサル	12	土		12	月	三者面談①	12	木		12	日		12	日	
13	木	講演会	13	日	県中学駅伝	13	火	三者面談②	13	金	全校集会(役員任命)	13	月	職員会	13	月	3年職員代休
14	金	遠足(3年)	14	月	職員会	14	水	三者面談③	14	土		14	火		14	火	職員会(進級判定)
15	土		15	火		15	木	三者面談④	15	日		15	水	1・2年基礎学力テスト	15	水	一般選抜結果通知
16	日		16	水	3年第2回基礎学力テスト	16	金	三者面談⑤	16	月	職員会	16	木		16	木	
17	月	学校公開週間 職員会	17	木		17	土		17	火		17	金	生徒指導委員会(指導班・相談班)	17	金	
18	火		18	金		18	日		18	水		18	土	3年卒業テスト	18	土	
19	水		19	土		19	月	職員会	19	木		19	日		19	日	
20	木		20	日		20	火		20	金	願書点検	20	月	3年卒業テスト	20	月	
21	金	中教研統一大会	21	月		21	水		21	土		21	火	1・2年学年末テスト① 一般選抜出願?	21	火	春分の日
22	土		22	火		22	木	全校集会(生徒会役員任命) 引継式・生徒総会 生徒指導委員会	22	日		22	水	1・2年学年末テスト② 一般選抜出願? 3年生代休	22	水	
23	日		23	水	勤労感謝の日	23	金	学年集会 終業式 大掃除 反省会	23	月	育成型選抜出願	23	木	天皇誕生日	23	木	生徒総会 大掃除
24	月	郡駅伝	24	木		24	土	冬季休業開始	24	火	育成型選抜出願	24	金	1・2年学年末テスト③	24	金	修了式・離任式 送別会
25	火		25	金	生徒指導委員会(指導班・相談班)	25	日		25	水		25	土		25	土	春季休業開始
26	水	群駅伝予備日	26	土	全人研	26	月		26	木	3年生激励会	26	日		26	日	
27	木		27	日	全人権	27	火		27	金	生徒指導委員会(指導班・相談班)	27	月	職員会(卒業判定)	27	月	
28	金	生徒指導委員会(指導班・相談班)	28	月	期末テスト① コンプライアンス研修	28	水		28	土	生光前期入試	28	火		28	火	
29	土		29	火	期末テスト② 町人権啓発文化展作品搬入	29	木	年末休	29	日	生光前期入試				29	水	粗大ゴミ処分
30	日		30	水	期末テスト③ 全校集会	30	金	年末休	30	月					30	木	
31	月					31	土	年末休	31	火	育成型選抜				31	金	

心電図
内科検診

新人駅伝前健康診断

学校運営協議員の皆さんにお願いしたいこと

学校の状況を見て評価するだけではなく、実際に学校運営に関わって頂きたいと考えています。

具体的には、学校の教育活動に関わることで、皆さんのお力をお借りしたいと考えています。

昨年度に引き続き、中学3年生に対する、高校入試面接練習のお手伝いを頂ければありがたいです。また、プランターの管理や学校の庭の手入れなどのお手伝いを行っていただける方(もしくはグループ)をご紹介いただければありがたいです。

時期 : 12月～1月に、

方法 : 何人かの方でペアになって、別室で生徒の模擬面接練習をして頂く。

具体的には :

(1)質問項目は学校で用意します。(もちろんアドリブで質問して頂くことも可能です)

※主に、

「この学校を志望した理由」「高校に入って頑張ろうと思うこと」「中学時代に頑張ったこと」

(2)生徒1人あたりの面接時間は7分程度

(3)面接で気になったところを、メモし、後で教員を通じて渡す。

(4)1人出入りも含め10分として、1時間で6人程度。

1回1～2時間(午前でも午後でも日程は調整します)

(5)1組2人(学校運営協議員+教員1名)のチームで面接。

(6)3年生98名。ですが、全員に対して実施することは厳しいと思います。

どなたかサポートして頂ける方を紹介して頂けるとありがたいです。

(あと、6人～12人)

タイムスケジュール

～10月 面接して頂ける方の紹介

11月上旬 日程調整

11月下旬 面接日時、質問事項等台本配布

12月第2週～第3週 面接練習

※学校運営協議員以外の方で協力してもいいという方がいましたら、板野中学校(672-0079 担当 松本教頭)までご連絡ください。改めて協力者に学校より電話させて頂き説明させて頂きます。